



# 東京歯科大学広報



卒業生代表 中村有希さんによる答辞:平成23年3月17日(木)、千葉校舎講堂

## ■第116回卒業証書・学位記授与式

第116回卒業証書・学位記授与式は、平成23年3月17日(木)午前10時より、千葉校舎講堂において挙行され、第116期卒業生125名が巣立って行った。

式は、本学混声合唱部による校歌斉唱の後、佐藤 亨学生部長の司会進行により、最初に3月11日(金)午後2時46分に起きた東日本大震災でお亡くなりになった方々に対し哀悼の意を込めて会場全員で「黙祷」を捧げた後に開式された。

井出吉信副学長の学事報告に続いて、河田英司教務部長から卒業生125名が呼名され、金子 譲学長から卒業生代表の中村有希さんに卒業証書が手渡された。例年であれば一人ひとり壇上へ上がり、金子学長から卒業証書の授与を受けるが、震災の影響で節電を余儀なくされる中、時間短縮のための措置となった。

各賞の受賞は、中村有希さんが学長賞として賞

2011年2・3月

本号の主な内容

247号

- ・第116回卒業証書・学位記授与式 ..... 1
- ・東京歯科大学水道橋移転計画建設事業起工式 ..... 17
- ・平成22年度口腔科学研究センターワークショップ開催 ..... 19
- ・教職員への移転関係報告(9) ..... 24
- ・東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)関連 ..... 26
- ・歯科衛生士専門学校第60回卒業証書授与式 ..... 36

状及び金メダルの授与を受けた。続いて血脇賞受賞者4名を代表して河野由貴さんに、精励賞受賞者10名を代表して石川文平君に、卒業論文賞受賞者23名を代表して高本愛子さんにそれぞれ賞状及び金メダルが授与された。また、平成20年にご逝去された故井上 裕前理事長の遺徳を顕彰して設置された「井上 裕賞」には、116期生からは野末真司君が選ばれ3人目の受賞者となった。

その後、金子学長から卒業生に対して告辞が述べられ、続いて熱田俊之助理事長、大山萬夫同窓会会長が祝辞を述べられた。また、在校生を代表して川上良明君（第5学年）から送辞が贈られ、これに応じて卒業生代表の中村有希さんが答辞を述べた。

最後に久保周平混声合唱部部长（口腔健康臨床科学講座講師）の指揮、安岡はるかさん（第3学年）のピアノ伴奏により全員で校歌を斉唱し、第116回卒業証書・学位記授与式は閉式した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。

その中で謝恩会委員長の鈴木香里さんから、「今年は、震災の影響で謝恩会を中止とさせていただきます。このお金の一部を卒業生の総意で震災に遭われた方々へ義援金として金一封贈ることに決定しました。」との報告があった。

その後、卒業生は体育館2階アリーナへ移動して恩師と共に記念撮影を終え第4教室にて、佐藤学生部長から卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、各褒賞受賞者には井出副学長より賞状・金メダルが授与され、全ての行事が終了した。

今回の卒業式は、震災被災地の方々に配慮した形となり、袴姿や色とりどりの振り袖姿は見られずスーツ姿の卒業生がほとんどであった。

## 学事報告

東京歯科大学

副学長 井出 吉信

この度の東日本大震災で、多くの方々が被災されました。

本学では、全学生の安否について現在確認作業を進めております。中でも被災の激しかった岩手県・宮城県・福島県・茨城県出身の学生は75名おり、全員無事である確認をしております。しかし、ご実家が被災している学生が9名いる状況でございます。心よりお見舞い申し上げます。

大変深刻な状況であることには変わりございませんが、大学側としても何らかの形での援助を現在検討しております。

それでは、学事報告をいたします。

現在、本学に在籍する学生は、822名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授57名、准教授54名、講師69名、助教125名、助手2名の合計307名、このほかに臨床教授等、嘱託教員、客員教員および非常勤講師、合わせて495名が担当しております。

本日、第116回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち125名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと8,347名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと14,360名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと14,651名となります。

平成23年3月17日



金子学長より井上 裕賞を授与される野末真司君：平成23年3月17日（木）、千葉校舎講堂



祝辞を述べる熱田理事長：平成23年3月17日（木）、千葉校舎講堂



告辞を述べる金子学長：平成23年3月17日（木）、千葉校舎講堂



思い出の染みこんだ教室で卒業証書を手渡される卒業生：平成23年3月17日（木）、千葉校舎第4教室

## 告 辞

東京歯科大学  
学 長 金 子 讓

116期の皆様、卒業おめでとうございます。

本日の卒業式に101名がここに集うことが出来ました。目出度い事です。

3月11日の午後に発生した東北地方太平洋沖地震は、大正末から観測開始以来日本における最大の規模であり、発生した津波は、特に岩手、宮城、福島県の沿岸に甚大な被害をもたらしました。死者はおそらく万の単位となるでしょう。現在、大学は被災地域のすべての在學生と連絡が取れました。學生はもとより、そのご家族ご親類の皆様のご無事を祈念いたします。

この大災害は、福島原子力発電に緊急事態をもたらし、その電力供給低下により計画的な停電がすでに始まっております。わが国の経済は、バブル崩壊後立ち直ることが出来ずに、失われた20年と呼ばれる最中の甚大災害であります。日本経済は、グローバルな金融の仕組みのなかではたして立ち直れるのか、この2次的な影響を早く脱却するためにわれわれは努力しなければならないと考えます。

皆さんが待ちに待った卒業式を、このように本日挙行できたことは幸いであったと大学は喜んでおります。

さて、昨年の東京歯科大学創立120周年記念事業では、皆さんと皆さんの後輩學生が一同に会し、互いに祝賀をしたことは忘れがたい体験であったと思います。あのくじ引きが当たるように祈っていた學生さんも多くいましたが、あの祈りの中には皆さんの自らの将来への覚悟が込められていたのに違いありません。

私は6年前皆さんの入学式で、「開拓スピリットとヒューマニティー」を求める旅が今日から始まるのだという訓辞をいたしました。そして「開拓スピリットとヒューマニティー」を備えるためには「教養」が大事だという話をいたしました。これらのキーワードは東京歯科大学を培ってきた要素でありまして、

そのことは過日の記念事業の一つであります東京歯科大学の歴史DVD、「近代歯科医学教育を拓く」から理解していただけたと思います。

皆さんは、今後歯科医師として約半世紀近くを過ごしていきます。この間、科学の発達にともなった歯科医学・医療も現在から大きく飛躍するに違いありません。皆さんは歯科医師として、この発達に歩調を合わせていかなければなりません。常に興味をもって学ぶことになります。そして、皆さんが学んだことを実践する対象は人間であります。患者さんが皆さんを信頼して初めて医療は成り立ちます。医学的技術と人間性によって皆さんは患者さんの信頼を獲得するにいたります。その片方だけでは不足なのであります。

東京歯科大学は、新しい時代に適応すべく30年間お世話になったこの稲毛から水道橋に戻ります。10年後には現在の歯学部は収まり、東京歯科大学も安定した形態で、さらに発展に向かっていく姿を私たち教職員は夢見ております。このとき皆さんの中には母校で仕事をしている方々も沢山いると思います。また、母校を離れていても、皆さんがかけがえのない大学生生活を送った母校に常にエールを贈って、その発展を願ってもらいたいと思います。大学の教育職員は、何よりも同窓のエールがエネルギーとなります。

終わりにあたりまして、長い人生を楽しく送るために知っておくとよい人生訓を皆さんに贈ります。

「世の中は、五分の真味に、二分侠気、あとの三分は茶目で暮らせよ」

血脇守之助の言葉です。

懐の深い、紳士淑女としてグローバルな社会の指導者になってください。

保護者の皆様に改めてご子弟のご卒業のお祝いを申し上げます。

## 祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 熱田 俊之助

卒業生へのご祝辞を述べさせていただく前に、3月11日に発生し、今尚続いております東日本の大震災により、多くの尊い命が失われたことに、深い哀悼の意を捧げますとともに、被災された皆様に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。

早春のこの佳き日に、第116回卒業証書授与式を迎えるにあたり、卒業生並びに保護者の皆様に法人を代表して、お喜び申し上げます。

まず、お子様方を手塩にかけ今日までお育てになられた保護者の皆様におかれましては、本日卒業式を迎えられ、感慨無量のものがあるかと存じます。誠におめでとうございませぬ。心から、お祝い申し上げます。

あわせて、今日まで、物心両面にわたり、本学の発展のために賜ったご協力、ご支援に、改めて感謝申し上げます。

また、一同窓として、金子学長をはじめとする大学関係者の皆様方の御尽力に深く敬意を表します。

卒業生の皆さんは、本日この日に至るまで、沢山の努力をし、さまざまな困難を乗り越え、頑張り切れることを学び、自らの持続する意思と努力で階段を一つ登られたことを実感していると思います。

卒業は一つの区切りではありますが、到達点ではありません。人生行路においては、一つの通過点であります。皆さんは、創立120周年を迎えた伝統ある東京歯科大学で学び、経験したことを糧に自信と誇りを持って、これからの長い人生行路を歩んでいってください。

天台宗の宗祖である最澄は、「一隅(いちぐう)を照らす此(こ)れ則(すなわち)国宝なり」と説いております。つまり「お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、光り輝くことのできる人こそが、何物にも代え難い貴い国の宝である」ということであ

あなたが、置かれている場所や立場で、ベストを尽くしてまわりを照らしていただきたいと思います。

どうか今後とも更なる学究や実践に励まれ、国民福祉の向上、歯科界の発展に貢献されますことを念願し、私の饒の言葉と致します。卒業おめでとう。

## 祝 辞

東京歯科大学同窓会

会 長 大山 萬夫

お祝辞を差し上げます前に、このたびの1,000年に一度と云われております東日本巨大地震につき被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、尊い命を失われた方々に謹んで哀悼の意を表します。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本日ここに第116回卒業証書授与式を挙行するにあたり、東京歯科大学同窓会を代表致しまして心よりお祝い申し上げます。卒業生の皆さん、並びにご列席の皆様おめでとうございます。本学に入学以来6ヵ年歯科医学の習得、そして医療人としての人格形成に努力され、本日ここにめでたくご卒業の日を迎えられました卒業生の皆様にお慶びの言葉を贈りますと共に、今日まで深い愛情と理解を持ってお支え頂いた保護者の方々に、そのご苦勞に対して衷心よりお慶びと敬意を表す次第であります。

また 教育指導に当られた本学教職員の皆様にも心より御礼申し上げます。

入学以来6ヵ年、まさに光陰矢の如しの感が有る事と存じます。今は学問的・人間的にも大きく成長され、歯科医師としての自覚に目覚められておられる事でしょう。皆さんは大学創立120周年記念式典・又記念学生行事に参加され、あらためて母校の120年の歴史の偉大さを再確認された事は、歯科医師のスタートとして大きな幸であったと存じます。

この度、卒業生の皆さんは明治28年高山歯科医学院院友会の名のもと、我が国初の歯科学校同窓会として誕生致した116年の歴史と伝統に輝く全国109支部8,000有余名の会員をもつ、東京歯科大学同窓会の会員の一人となりました。本同窓会は会員相互の親睦と福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することを大きな使命としております。目下進行中の大学水道橋回帰についても全面的に協力を致しております。他方、歯科界の発展と国民歯科医療の向上増進に寄与すべく多くの同窓・先輩の方々は努力貢献され今日私立歯科大学の雄としての歴史を築いてこられました。本日ここに新しいパワー、無限の可能性を秘めた誠に頼もしい新会員をお迎え出来ました事は今後同窓会事業の推進に新たな大きなエネルギーとして、おおいに期待致するところ大なるものが有ります。もろ手をあげてご歓迎申し上げます。

ご案内の様に、日本の平均寿命は年々延び少子高齢化の傾向をたどりつつも世界一と云われております。この様なとき国民の皆様は健康指向が強く、特に歯科医療に対する関心は非常に高いものがあります。歯科医師会も口腔を包括した全身への健康管理を提唱し我々の動向が大きく注目されてきております。この様なとき卒業された皆様には国民の皆様の要望に答えるべく、今後全人的医療の確立を目標として、広く目を社会に向けつつ日々の診療に対応して頂きたいのです。本同窓会は今年度より若い先生方を対象に少しでもお役に立つべくプロジェクトチームを立ち上げ、参加自由型のセミナーを開講すべく準備致しております。これはマンツーマンのきめの細かい研修であります。生涯研修のスタートと位置付け是非ご参加受講頂き、信頼の医療の確立を願っております。またセミナーに参加することにより先輩・後輩の絆もより一層強固なものとなりましょう。

他方一般社会に目を向けますと、昨今日本の政治経済はご承知の様にリーマンショック以来大変厳しい状況下にあります。経営者の人間性・人生哲学をも問われる時代となっております。一般の私立大学における、大学の存在基盤とも云える建学の精神が話題となっており、建学の精神があらためて再確認されて来ております。吾が母校東京歯科大学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」血脇守之助先生のお言葉は我が校においては今日現時点においても厳然として生き輝いております。今後皆様には歯科人生の座右の銘とし、良心と尊厳を持って、自分の専門職である歯科医療を天職と位置付けて邁進され

れば患者さんの信頼のもと必ず道は明るく、広く展開するものと確信致しております。20年後の日本の歯科界のリーダーは皆さんです、日々新たに頑張ってください。

終わりに臨み、今後開始される 歯科医師臨床研修の充分なる成果をご期待致すと共に、本日ご来会の皆様をはじめ卒業生ご一同のますますのご健勝とご発展を心より祈念致します。

これをもって祝辞と致します。

## 送 辞

在校生代表

川上 良明

梅の花が咲き、桜もほころび始めるこの良き日、晴れて卒業証書授与式を迎えられた卒業生の皆様に対し、在校生一同心より御喜び申し上げます。

顧みれば、皆様は歯科医学を志しこの東京歯科大学にご入学されてから今日までの間、多くの出会いや経験、そして困難を乗り越えられたことと思います。それらの出会いや経験は、学生時代の良き思い出として皆様の心の中に深く刻まれるとともに、これからの人生においても必ず大きな心の支えとなることでしょう。

さて、歯科医療の進歩とともに、私たちを取り巻く社会環境、そして歯科医療を取り巻く環境は益々複雑で、多くの問題を抱えています。しかしながら本学で学ばれた知識と技術、精神を糧にこれから待ち受ける数々の大きな困難を乗り越え歯科界でご活躍されることでしょう。皆様が本学で歩まれた御姿を模範とし、我々在校生はこれからも東京歯科の発展、そして歯科医学の探求に精進する所存でございます。

最後に、皆様がこれまで良き先輩として私たちを導き、励ましてくださったことに心から感謝の意を表し、今後の御活躍と御多幸を御祈りしつつ、在校生一同心より御祝い申し上げて、御卒業される皆様への送辞とさせていただきます。

## 答 辞

第 116 期卒業生代表

中村 有希

徐々に寒さも和らぎ、麗らかな春の訪れが感じられるようになりました。

本日は、私たちの卒業証書授与式に、ご来賓ならび諸先生方をはじめ多数の皆様のご臨席を賜り、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

只今、金子学長の告辞、そして熱田理事長はじめご来賓の皆様より示唆に富んだ励ましのお言葉を頂き大変、身の引き締まる思いでございます。また、在校生の皆様からは心温まる送辞を頂き、本当にありがとうございます。

私たちが東京歯科大学に入学したのは今から6年前のことでした。これから始まる大学生活に大きな期待を寄せて千葉キャンパスの正門に立った日のことが、つい先日のことのように思われます。学生生活を振り返ると、私たちは様々なかけがえない体験をして参りました。日々の勉強や課外活動、学校行事はもちろんのこと、在学中に先生方から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得たことは計り知れず、私たちの今後の人生における貴重な財産です。

あっという間に、時が流れ、今日、無事に卒業の日を迎えることとなりました。今も実感が湧かず、寂しさと嬉しさを同時に感じております。ここまで、頑張ってきたことが出来たのも、たくさん励まして下さった先生方のご指導、ご支援は言うまでもありませんが、共に苦難を乗り越えた友人、温かく見守ってくれた家族のお陰の賜物と痛感しております。

昨今の社会の変革は想像を絶するものがあります。世界に目を向ければ、中東やアフリカ諸国では独

裁政権の崩壊、ニュージーランドで起きた地震、また国内でも世界観測史上最大の東北地方太平洋沖地震が起き、多数の死者・負傷者を出し、今も混乱が続いています。他にも、記録的猛暑や豪雪などの異常気象、若者の就職難など時代の変動を感じさせるものばかりです。私たちも、歯科医師過剰が問題視される中、社会に出て行こうとしています。しかし、本学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を忘れることなく、社会に貢献し尊敬されるように、努力します。

今日で私たちは6年間の大学生活を終えます。今までは、卒業・国家試験という共通の目標に向かって努力をしてきました。しかし、ここからは125名それぞれが自分で決めた道を歩むことになります。どの道も決して平坦ではなく、様々な困難が待ち受けていると推察されますが、東京歯科大学の卒業生であることを誇りに、最後まで最善を尽くし、歩んで参ります。

最後になりましたが、これまでご指導くださいました諸先生方、様々な場面で支えてくださった職員の皆様、温かく見守って下さったご父兄の方々、そして私たちの大学生活に関わって下さった全ての方々に改めて深く御礼申し上げます。私たち、卒業生一同は皆様から受け取った精神を忘れずに、それぞれの道へ旅立って行きます。どうかこれからも温かく見守って下さい、そして時には、変わらぬご指導をお願い致します。これからも期待に応えられる様、精進することをお約束し、また東京歯科大学の更なる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

## ■教授定年退職のご挨拶

平成23年3月31日付をもって、病理学講座 下野正基教授、歯周病学講座 山田 了教授、千葉病院総合診療科 角田正健教授、オーラルメディシン・口腔外科学講座 山根源之教授が定年を迎えられ、退職された。

定年退職のご挨拶



病理学講座

下野正基

昭和45年病理学教室第2講座に入室以来40年があつという間に過ぎ、本年3月31日をもって定年退職いたしました。この間、病理学の研究と教育を担当させていただきましたが、このような場と機会を与えて下さいました東京歯科大学の先輩、同僚、後輩並びに関係各位に心から感謝いたします。

昭和49年から51年までのミラノ大学医学部薬理学研究所への留学は私の研究生生活にとって大きな転機となりました。また、昭和58年、大学のご配慮により3カ月間の海外を研修するという機会を与えていただきましたが、世界の様々な研究者と情報交換した経験は「象牙質・歯髄複合体」の国際シンポジウム開催につながりました。

学内では平成7年教務部長に、さらに続いて平成10年から16年には学監に任命されました。在任中、カリキュラムの変更や実習室の効率的運用、私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業に、教授の皆様のご協力を頂いたことを心から感謝しております。平成16年から22年まで歯科衛生士専門学校校長に就任し、歯科衛生士教育およびその社会的役割の重要性を知ることができたことは幸いでした。

学外では多くの先輩諸氏のご指導のお陰で、第19回日本歯科医学会総会・第22回アジア太平洋歯科大学準備委員長、日本歯科医学会総務理事、およびFDI（世界歯科連盟）理事という大役も務めることができました。

私とともに研究の中に夢を追って来た東京歯科大学病理学講座（病理学第2講座）の、優秀で素晴らしい仲間に関心より感謝いたします。

最後になりましたが、東京歯科大学の益々の発展、そして関係各位のご健勝とご活躍を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。

### 略歴

#### 学歴

昭和39年 3月 20日 北海道立富良野高等学校卒業  
昭和39年 4月 10日 東京歯科大学入学  
昭和45年 3月 25日 東京歯科大学卒業  
昭和51年 9月 30日 学位受領(歯学博士)東京歯科大学

#### 資格・免許

昭和45年 5月 6日 第47回歯科医師国家試験合格  
昭和45年 6月 22日 歯科医籍登録(第58365号)  
昭和57年 9月 1日 死体解剖資格認定(第4328号)  
平成 2年 4月 1日 日本病理学会認定口腔病理医(第30号)

#### 職歴及び研究歴

昭和45年 5月 1日 東京歯科大学副手 病理学第2講座(昭和46年3月31日まで)  
昭和46年 4月 1日 東京歯科大学助手 病理学第2講座(昭和48年3月31日まで)  
昭和48年 4月 1日 東京歯科大学講師 病理学第2講座(昭和51年10月31日まで)  
昭和48年10月 1日 東京都老人総合研究所非常勤研究員(昭和59年10月31日まで)  
昭和49年10月 1日 ミラノ大学医学部薬理学研究所客員研究員(昭和51年4月30日まで)  
昭和51年11月 1日 東京歯科大学助教授 病理学第2講座(平成3年3月31日まで)  
昭和58年 9月 1日 学命により海外研修(昭和58年11月30日まで)  
平成 3年 4月 1日 東京歯科大学病理学講座主任教授(現在)非常勤講師(現在)



九州大学歯学部、広島大学歯学部、  
大阪大学歯学部

学内における経歴

昭和55年 6月 1日 大学院歯学研究科教務部副部長(昭和58年5月31日まで)

昭和58年 6月 1日 学生部副部長(平成7年5月31日まで)

平成元年 6月 1日 動物舎管理部長(平成4年5月31日まで)

平成 4年 6月 1日 国際渉外部長(平成7年5月31日まで)

平成 7年 6月 1日 教務部長(平成10年5月31日まで)

平成10年 6月 1日 学監(平成16年5月31日まで)

平成16年 6月 1日 東京歯科大学歯科衛生士専門学校長(平成22年5月31日まで)

#### 学会および社会における活動

昭和55年 4月 1日 日本病理学会評議員(現職)

平成 1年10月 1日 日本口腔病理学会理事(現職)

平成 6年 4月 1日 日本歯周病学会評議員(現職)

平成 8年 4月 1日 (財)ライオン歯科衛生研究所理事(現職)

平成 9年 4月 1日 第19回日本歯科医学会総会準備委員長(平成13年3月31日まで)

平成 9年 4月 1日 日本歯科医師会国際渉外委員会委員(平成16年3月31日まで)

平成11年 4月 1日 IADR、Pulp Biologyグループ、会長(平成12年3月31日まで)

平成11年 6月 1日 日本学術振興会特別研究員など審査会委員(平成11年12月31日まで)

平成11年11月 1日 厚生省中央薬事審議会委員(平成13年1月22日まで)

平成12年 1月 31日 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成12年12月31日まで)

平成12年 5月 12日 日本口腔科学会理事(平成18年3月31日まで)

平成12年10月 1日 国際口腔病理学会理事(平成16年9月30日まで)

平成12年12月 5日 FDI(世界歯科連盟)教育委員会委員(平成17年8月25日まで)

平成13年 1月 23日 厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員(現職)

平成15年 4月 1日 日本歯科医学会総務理事(平成18年3月31日まで)

平成17年 8月 26日 FDI(世界歯科連盟)理事(平成20年9月25日まで)

平成18年 4月 1日 日本学術会議連携会員(現職)

平成23年 1月 1日 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成23年12月31日まで)

#### 定年退職のご挨拶



#### 歯周病学講座

山田了

平成23年3月31日をもって定年退職を迎えました。先日(平成23年3月11日)、日本を襲った未曾有の大震災、東北地方太平洋沖地震に心を痛めつつ退職のあいさつを記しています。

昭和47年4月に私が歯科保存学第二講座に入局、佐藤徹一郎教授のもとで昭和51年9月に学位論文を完成し、大学院生時代の病理組織学の研究が、その後の私の研究活動の主体となり、その基礎を築いていただいた佐藤、見明 清両教授の先生方に深く感謝しています。昭和62年9月から電子顕微鏡を用いた歯周病学の研究ではその当時、最先端の研究を行っていたペンシルバニア大学歯周病学講座のMax Listgarten教授のもとで研究を行い、この間フロリダ・オーランドで行われたGTR研修会に参加したことは、日本でのGTR療法の普及に大いに役立ちました。色々な方面での活躍の場を築いていただきましたListgarten教授には感謝の気持ちで一杯です。平成3年4月、歯科保存学第二講座主任教授に就任し、対外的活動にも力を入れ、平成6年には副理事長として日本歯周病学会の実務に携わり、学会のあり方の基本を学びました。平成

8年6月より第19回日本歯科医学会総会・第22回アジア太平洋歯科大会を石川達也学長が会頭のもと事務局長として4年間の準備期間を経て、平成12年5月25日から30日までの日程で開催され、盛会裡に終了しました。平成13年6月からの千葉病院長時代には、当時国立大学歯学部では、大学院重点化大学の制度改革が急速に進められ、本学においても石川学長のもとで東京歯科大学大学院重点化準備委員会を開設、毎夜深夜におよぶ熱い意見を戦わせたことを思い出します。平成19年4月に日本歯周病学会理事長に就任、第50回記念大会では、学会の指名を受けて、理事長として、また大会長として第50回記念大会の準備と運営を行い、多くの学会員ならびに関係諸外国からの招待者を交えて記念大会を盛会裡に終了することができました。

私が教授に就任してここに講座の足跡を見るごとに多くの先輩、友人、教室の仲間、大学院生の協力によるものと深く感謝しています。また、講座及び大学の関係者には、これまでに賜りましたご芳情に対して、厚く御礼を申しあげます。

#### 略 歴

##### 学歴

昭和41年 4月 東京歯科大学入学

昭和47年 3月 東京歯科大学卒業

昭和47年 4月 第51回歯科医師国家試験合格

昭和47年 5月 歯科医籍登録第61543号

昭和47年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科(歯科保存学専攻)入学

昭和51年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科(歯科保存学専攻)修了

昭和51年 9月 学位記受領(歯学博士)東京歯科大学

職歴

昭和51年 4月 東京歯科大学保存学教室第二講座助手  
 昭和53年 7月 東京歯科大学保存学教室第二講座講師  
 昭和63年 9月 ペンシルバニア大学歯周療法学教室研究員  
 平成 2年11月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校正講師  
 平成 3年 4月 東京歯科大学保存学教室第二講座主任教授  
 平成 4年 6月 東京歯科大学研究部副部长  
 平成 7年 6月 東京歯科大学保存科部長  
 平成 7年 6月 東京歯科大学千葉病院副院長  
 平成10年 6月 東京歯科大学大学院研究科学生部長  
 平成10年 6月 東京歯科大学学会理事  
 平成13年 6月 東京歯科大学千葉病院長  
 平成13年 6月 東京歯科大学学会理事  
 平成14年 3月 東京歯科大学学会監事  
 平成14年 4月 東京歯科大学法人評議員  
 平成16年 6月 東京歯科大学研究部長  
 平成19年 6月 東京歯科大学千葉病院保存科部長  
 平成19年 6月 東京歯科大学図書館長

学会活動

平成 3年 5月 日本歯周病学会理事  
 平成 3年 6月 日本歯科保存学会理事  
 平成 6年 4月 日本歯周病学会副理事長  
 平成 7年 4月 日本歯周病学会第38回春季学術大会大会長  
 平成 8年 6月 第19回日本歯科医学会総会・第22回アジア太平洋歯科大会事務局長  
 平成17年 8月 社団法人日本口腔インプラント学会常任理事  
 平成18年 1月 日本歯科薬物療法学会理事  
 平成19年 4月 非営利活動法人 日本歯周病学会理事長  
 平成19年 9月 特定非営利活動法人日本歯周病学会50周年記念大会大会長

受賞・表彰

平成23年 1月 日本歯科医学会会長賞(教育部門)

定年退職のご挨拶



千葉病院総合診療科

角 田 正 健

戦後最大の災害といわれる東日本大震災が発生した平成23年3月の末日をもって定年を迎えました。被災されお亡くなりになりました多くの方々に、心よりお悔やみ申し上げます。

顧みますと昭和50年大学院修了後、歯科保存学第二講座(現歯周病学)の助手を拝命以来36年が過ぎました。この間、歯周病学の教育・研究・臨床に力を注ぐことができました。中でも、木村吉太郎教授より与えて頂きましたテーマ“口臭”は私の生涯の研究・臨床であり、それを支えて下さいました歯周病学講座・保存学教室の先生方に感謝しております。多くの患者さんから頂いた感謝のお言葉が、私の明日への原動力であり支えでもありました。

在任期間中には、千葉病院保存科の初代医局長、歯科衛生士専門学校創立50周年事業に学生部長として、同窓会100周年記念事業には常任理事として、歯科医師臨床研修制度の発足に伴い新設された千葉病院総合診療科の科長として、昨年には本学創立120周年記念事業に教授として、このような節目にさまざまな立場・役職で務めることができましたことは大きな喜びであります。ま

た、千葉県国民健康保険団体連合会の歯科審査委員を委嘱されました昭和58年からの21年間は、出身大学を問わず先輩・後輩の多くの先生方と親交を深められましたこと、さらに平成4年からは現在の千葉県健康福祉部保険指導課の指導監査専門医として、職種の異なる多くの方々と業務をさせて頂いておりますことは、私にとりまして大きな財産であります。

末筆になりましたが、『継承と発展』を合言葉に教職員が一丸となって邁進されております東京歯科大学の更なる隆盛を祈念し、退任のご挨拶いたします。

略 歴

学歴

昭和39年 3月 千葉県立千葉高等学校卒業  
 昭和40年 4月 東京歯科大学入学  
 昭和46年 3月 東京歯科大学卒業  
 昭和46年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科(歯科保存学)入学  
 昭和50年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了  
 昭和50年 3月 歯学博士の学位受領(東京歯科大学)

資格・免許等

昭和46年 4月 第49回歯科医師国家試験合格  
 昭和46年 6月 歯科医籍登録 第59764号  
 平成 2年 6月 日本歯周病学会認定医(第78号)  
 平成 4年 3月 日本歯科保存学会認定医(第259号)  
 平成 4年 5月 日本歯周病学会指導医(第50号)  
 平成15年12月 歯科医師臨床研修指導医(第194号)  
 平成20年 4月 日本歯周病学会専門医(第78号)

職歴等

昭和50年 4月 東京歯科大学助手(歯科保存学第二講座)  
 昭和51年 4月 東京歯科大学講師(歯科保存学第二講座)  
 昭和58年 1月 千葉県国民健康保険団体連合会歯科審査委員(平成16年3月)

平成 元年 6月	東京歯科大学歯科衛生士専門学校学生部長 (平成15年5月)	平成14年 4月	東京歯科大学千葉病院総合診療科主任 (平成17年3月)
平成 3年 4月	東京歯科大学助教授(歯科保存学第二講座)	平成14年 4月	東京歯科大学千葉病院総合予診室長 (平成16年5月)
平成 3年 7月	千葉県歯科衛生士育成協議会委員 (平成15年5月)	平成15年 6月	東京歯科大学教授(歯科保存学第二講座)
平成 3年 4月	北原学院歯科衛生専門学校 非常勤講師	平成17年 4月	東京歯科大学教授(千葉病院総合診療科)
平成 4年 4月	千葉県社会部国民健康保険課 (現健康福祉部保険指導課)指導監査専門医	平成17年 4月	東京歯科大学千葉病院総合診療科科長
平成 4年 4月	千葉県国民健康保険団体連合会療養費認定審査会委員	平成18年 1月	東京歯科大学同窓会常任理事 (学術担当 平成19年12月)
平成 4年 4月	慶応義塾大学医学部歯科口腔外科学教室 非常勤講師(平成15年3月)	平成19年 6月	東京歯科大学臨床研修委員長
平成 5年 4月	千葉県立衛生短期大学 非常勤講師 (平成15年3月)	平成20年 9月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
平成 6年 1月	東京歯科大学同窓会常任理事 (広報担当 平成7年12月)	平成23年 3月	定年により退職
平成 8年 1月	東京歯科大学同窓会常任理事 (広報担当 平成9年12月)	賞罰	
平成10年 6月	東京歯科大学千葉病院社会保険審議委員長 (平成16年5月)	平成 5年11月	千葉県知事表彰
		平成15年10月	厚生労働大臣表彰

定年退職のご挨拶



オーラルメディスン・  
口腔外科学講座

山 根 源 之

昭和45年(1970)に本学を卒業して以来、41年間にわたり臨床、研究、教育に携わりました。この間、健康にも恵まれ責務を果たしつつ無事に定年を迎えることが出来ましたのは、諸先輩をはじめ関係者の皆さまのご指導とご支援のたまものと、心より御礼を申し上げます。

本学卒業後、大学院歯学研究科(口腔外科学第1講座 長尾喜景教授)へ進み、長尾教授が教授職を退かれた後は、大森清弘教授に師事しました。大森教授が昭和56年夏に急逝されてから現在に至るまで、野間弘康教授に公私にわたりご指導をいただきました。

平成8年10月、オーラルメディスン講座主任教授として同講座の診療科がある市川総合病院へ外木守雄先生(現准教授)と一緒に赴任しました。それまでの歯科診療に加え口腔外科分野を充実させるようにとの大学ならびに地元歯科医師会からの強い要望があったため、診療科名を「歯科・口腔外科」に、講座表記は「Department of Oral Medicine, Oral and Maxillofacial Surgery」としました。平成17年4月には講座名が「オーラ

ルメディスン・口腔外科学講座」と変更され、同時に病院内に東京歯科大学口腔がんセンターが設置され、私はセンター長を併任することになりました。この15年間で講座の担当分野は広がり、多くの学位論文を作成できました。また診療収入も年間7億円を超え、当初の使命は十分果たせたと考えています。さらに平成10年6月から平成22年5月までの12年間、市川総合病院副病院長として病院運営の一旦も担わせていただきました。

学会活動では、オーラルメディスンの基盤である日本口腔診断学会と日本口腔粘膜学会の理事長を務めています。教授在任中、7学会の学術大会を主催させていただき、特に平成21年の第20回日本老年歯科医学会、平成22年の第55回日本口腔外科学会は、講座員と関係者のご支援で良い大会を開催することができました。

オーラルメディスン・口腔外科学講座、市川総合病院歯科・口腔外科、東京歯科大学口腔がんセンターの発展をお祈り申し上げます。

略 歴

学 歴

昭和39年 3月 20日 福井県立藤島高等学校卒業  
 昭和45年 3月 25日 東京歯科大学卒業  
 昭和49年 4月 10日 東京歯科大学大学院歯学研究科修了(口腔外科学専攻)  
 歯学博士の学位受領(東京歯科大学 第359号)

資格・免許等

昭和45年 6月 9日 歯科医籍登録(第58241号)  
 昭和55年 8月 31日 (社)日本口腔外科学会認定制度による口腔外科専門医(第22号)  
 昭和61年 9月 7日 (社)日本口腔外科学会認定制度による口腔

平成16年 4月 1日	外科指導医(第212号) 日本口腔診断学会指導医(第4号)、認定医(第58号)	平成21年 6月 1日	学校法人東京歯科大学評議員(平成22年5月31日まで)
平成18年 4月 1日	(NPO) 日本臨床腫瘍学会暫定指導医(第5287号)	学会および社会における活動	
平成19年 1月 27日	(社) 日本老年歯科医学会認定医(第1号)、指導医(第1号)	昭和59年 6月 1日	千葉県社会保険診療報酬請求書審査委員(平成8年9月30日まで)
平成19年 8月 3日	日本歯科心身医学会認定歯科心身認定医(第34号)、指導医(第34号)	平成2年 4月 1日	日本老年歯科医学会理事(現在)
平成20年 3月 4日	日本歯科人間ドック学会認定医(第4号)、指導医(第4号)	平成9年 5月 1日	日本口腔診断学会理事(現在)
平成20年12月 7日	(社) 日本顎顔面インプラント学会指導医(第83号)	平成11年 6月 1日	日本歯科医学会評議員(平成16年5月31日まで)
平成21年 8月 1日	日本がん治療認定医機構 暫定教育医(歯科口腔外科)(第098307号)	平成11年 6月 5日	日本口腔粘膜学会理事(現在)
職歴および研究歴		平成12年11月 1日	千葉県歯科病診連携連絡協議会常務理事(現在)
昭和49年10月15日	東京歯科大学口腔外科学第1講座助手(昭和52年3月31日まで)	平成13年 6月 1日	東京歯科大学学會理事(現在)
昭和52年 4月 1日	東京歯科大学口腔外科学第1講座講師(昭和59年3月31日まで)	平成13年 5月11日	第14回日本口腔診断学会総会・学術大会大会長
昭和55年 4月 1日	国立東京第2病院歯科口腔外科へ出向(昭和56年3月31日まで)	平成14年 4月 1日	アメリカオーラルメディシン学会会員(現在)
昭和59年 4月 1日	東京歯科大学口腔外科学第1講座助教授(平成8年9月31日まで)	平成15年 1月 1日	日本歯科心身医学会理事(現在)
昭和60年 9月15日	ドイツ連邦共和国マインツ大学に留学(昭和60年12月15日まで)	平成15年 1月 1日	日本有病者歯科医療学会理事(現在)
平成8年10月 1日	東京歯科大学オーラルメディシン講座主任教授(現在) (平成17年4月1日オーラルメディシン・口腔外科学講座に講座名称変更)	平成15年 5月 1日	日本口腔科学会理事(平成22年3月31日まで)
平成8年10月 1日	東京歯科大学歯科衛生士専門学校正講師兼任(現在)	平成16年 4月 1日	日本歯科人間ドック学会常任理事(現在)
平成8年11月 1日	東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科部長(現在)	平成16年 4月 1日	日本老年歯科医学会理事(平成22年6月25日まで)
平成10年 6月 1日	東京歯科大学市川総合病院副院長(平成22年5月31日まで)	平成16年 4月 1日	日本老年学会理事(現在)
平成18年 4月 1日	東京歯科大学口腔がんセンター センター長併任(現在)	平成16年 4月 1日	国際老年学会、アジア老年学会評議員(現在)
学内における経歴		平成16年 4月 1日	日本口腔ケア学会理事(現在)
昭和61年 7月 1日	千葉病院カルテ委員会委員長(平成8年9月30日まで)	平成16年 6月 1日	日本歯科医学会理事(現在)
平成5年11月 1日	東京歯科大学剣道部部长(現在)	平成16年 7月 9日	第14回日本口腔粘膜学会総会・学術集会大会長
平成13年 6月 1日	市川総合病院医療機器整備委員会委員長(平成16年5月31日まで)	平成16年12月 5日	第7回日本歯科人間ドック学会総会・学術大会大会長
平成13年 6月 1日	市川総合病院研究室委員会委員長(平成19年5月31日まで)	平成16年10月 20日	日本口腔外科学会理事(現在)
平成13年 6月 1日	市川総合病院倫理・治験審査委員会委員長(現在)	平成17年 4月 1日	日本抗加齢医学会評議員(現在)
■名譽教授の推薦		平成17年 7月12日	日本癌治療学会評議員(平成19年7月11日まで)
平成23年2月8日(火)開催の第580回教授会において、本学名譽教授称号授与と規程に基づき、本年3月31日付で定年退職される下野正基		平成18年 1月 1日	日本口腔粘膜学会理事長(現在)
		平成18年 1月 1日	日本口腔診断学会理事長(現在)
		平成18年 4月 1日	日本歯科人間ドック学会副会長(現在)
		平成18年 9月 1日	日本学術会議連携会員(現在)
		平成19年 4月 1日	日本老年医学会代議員(現在)
		平成20年 4月 1日	文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員(現在)
		平成20年 7月19日	第23回日本歯科心身医学会総会・学術大会大会長
		平成21年 6月18日	第20回日本老年歯科医学会総会・学術大会大会長
		平成21年 6月27日	第187回日本口腔外科学会関東地方大会大会長
		平成21年10月20日	日本口腔外科学会常任理事(現在)
		平成22年 4月 1日	日本歯学系学会協議会理事長(現在)
		平成22年10月16日	第55回日本口腔外科学会総会・学術大会大会長
		教授、山田 了教授、山根源之教授を名譽教授に推薦することが了承された。これを受け、平成23年2月18日(金)開催の第668回理事会において平成23年4月1日付の推薦が承認された。	

## 学内ニュース

### ■山田 了教授 日本歯科医学会会長賞を受賞

平成22年度の日本歯科医学会会長賞候補として特定非営利活動法人 日本歯周病学会より推薦されていた歯周病学講座 山田 了教授は、同賞(教育部門)の受賞が決定し、平成23年1月21日(金)に日本歯科医師会大会議室で行われた授賞式にお

いて、江藤一洋日本歯科医学会会長から表彰状と副賞を授与された。

今回の受賞は、山田教授のこれまでの教育活動の実績が高く評価されたもので、本学にとっても大変名誉なことである。

**■一般入学試験Ⅰ期・大学入試センター利用試験Ⅰ期、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験追試験実施**

平成23年度一般入学試験（Ⅰ期）・大学入試センター利用試験（Ⅰ期）が、平成23年2月2日（水）午前9時より水道橋校舎及び大阪会場の天満研修センター、今年度の推薦入学選考からの会場である福岡のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。Ⅰ期は、一般入学試験352名、大学入試センター利用220名、併願者175名、合計572名（実数397名）の志願者があった。一般入学試験志願者には英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を実施した。大学入試センター利用試験志願者は、1月15日（土）、16日（日）に実施された大学入試センター試験において本学が指定した科目を予め受験してもらい、2月2日（水）に水道橋校舎及び大阪会場、福岡会場において小論文、面接試験を実施した。一般（Ⅰ期）、大学入試センター利用（Ⅰ期）共に2月5日（土）午後4時に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

平成23年度一般入学試験（Ⅱ期）・大学入試センター利用試験（Ⅱ期）、編入学試験が、平成23年3月12日（土）午前10時より水道橋校舎において実施された。一般入学試験では111名、大学入試センター利用27名、併願者26名、合計138名（実数112名）、編入学試験では9名の志願者があった。当初の予定は午前9時開始であったが、前日の東日本大震災の影響で交通機関が大幅に乱れ、予定を変更したものである。当日も余震が続く環境下であったが、半数以上の受験者が集まり、その合格発表は3月15日（火）午後4時に行われた。

また、東日本大震災の影響で3月12日（土）の平成23年度一般入学試験（Ⅱ期）・大学入試センター利用試験（Ⅱ期）、編入学試験を受験できなかった受験生を対象に3月19日（土）午前9時30分より追試験を実施し、3月22日（火）に合格発表が行われた。今回の未曾有の大震災の影響により、本学の入学試験も交通状況の混乱、受験生への連絡、試験スケジュールの変更、追試験の実施などその対応に追われたが、教職員の連携により無事に終了することができた。

**■西村孝太大学院生 日本口腔インプラント学会第30回関東・甲信越学術大会で優秀発表賞を受賞**

平成23年2月12日（土）・13日（日）に開催された公益社団法人日本口腔インプラント学会第30回関東・甲信越学術大会（パシフィコ横浜、神奈川県）において、口腔インプラント学講座の西村孝太大学院生が、優秀発表賞を受賞した。

この賞は本学術大会で発表された62演題の中から、学術委員会が選考を行い、特に優れた2演題に贈られた。

今回受賞した演題は、“歯科用コーンビームCTによる下顎舌側孔の検討”である。本研究は東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科を受診し、歯科用コーンビームCT撮影を行った患者を対象として、下顎骨舌側に認める小孔、いわゆる舌側孔の発現頻度・発現パターン・解剖学的形態の検討を行ったものである。学術委員会の本演題に対するコメントは、「今まで解剖学的にも不明であった舌側孔の位置を分類し、そのパターンを提示したことにより、重篤な医療事故を防止する上で臨床的に大変有用である」と高く評価された。今後、舌側孔についてさらに詳細な検討を行うことにより、安心・安全なインプラント手術の一助となることが期待される。



発表する西村大学院生：平成23年2月13日（日）、パシフィコ横浜、神奈川

**■平成22年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催**

平成23年2月14日（月）午後6時より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。本会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第8回目となる今回は、11名の臨床研修歯科医全員が口頭発表による症例報

告を行った。

当日は、院内の教職員をはじめ、協力型臨床研修施設の指導医の先生方にもご出席いただき、臨床研修歯科医の発表に対して貴重なコメントをいただくことができた。臨床研修歯科医は、それぞれ極めて真摯な態度で発表を行い、それに応じて活発な質疑応答がなされ、全ての参加者にとって非常に有意義な報告会となった。



発表風景: 平成23年2月14日(月)、水道橋校舎13階B教室

#### ■市川総合病院 市川市医師会・歯科医師会員及び医療関係者との講演会・懇親会開催

平成23年2月17日(木)午後7時より、市川総合病院と地域の各医療機関との病診連携の強化を推進するため、市川市医師会・歯科医師会員の先生方および市川市の医療関係者を招いて講演会および懇親会が、市川グランドホテルにおいて開催された。

講演会では、スポーツ歯学研究室の石上恵一教授を講師にお招きして、「エッ!知らなかった“歯とスポーツとの関係”」と題した講演を伺った。

噛み合わせによる問題からのスポーツパフォーマンスへの影響や、瞬発力や身体のバランスなど身体機能の影響など“歯とスポーツとの関係”につ



講演する石上教授:平成23年2月17日(木)、市川グランドホテル

いてスライドや動画を用いてわかりやすく説明された。

講演会終了後には、同ホテルにおいて懇親会が行われ、患者を通じてのやりとりはあるものの直接会ってお話する機会はなかなか無いため、懇親会では市川総合病院の教職員の紹介と、医師会・歯科医師会員の先生方および市川市の医療関係者の紹介が行われた。和やかな雰囲気の中でお互いの距離を縮めることのできた有意義な懇親会は盛会のうちに午後10時過ぎに終了した。

#### ■第4学年共用試験CBT-OSCE実施

平成17年度より正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』(医療系大学間共用試験実施評価機構)が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT(コンピュータによる客観試験:知識領域)が、平成23年2月18日(金)に千葉校舎第1、2教室で、OSCE(客観的臨床能力試験:態度・技能領域)が、2月27日(日)に千葉校舎臨床基礎実習室、臨床シミュレーション実習室、セミナー室等において実施された。また、CBT追・再試験が3月10日(木)に行われた。

CBTは、約130名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上設けられる多選択肢問題の2連問(L形式)順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問(W、Q形式)、五肢択一問題(A形式)の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、医療面接・説明指導系2課題、技能系4課題にレスト(休憩)を加えた7ステーション(ST)で実施された。機構から2名のモニター、他大学から6名の外部評価者、外部から8名の標準模擬患者(SP)の協力を得て、総勢170名を超えるスタッフを動員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ち

で試験に臨んでいた。

### ■東京歯科大学水道橋移転計画建設事業起工式挙

平成23年2月19日(土)大安吉日の午前10時より、さいかち坂校舎(仮称)建設予定地(東京都千代田区神田駿河台2-9-7)において、東京歯科大学水道橋移転計画建設事業の起工式が挙行された。参列者は法人役員、法人評議員、教授、同窓会関係者、父兄会関係者、学生代表の他、施工者代表、設計者代表を加えて総数およそ60名であった。まず三崎稲荷神社宮司による神事が厳粛に執り行われ、次いで株式会社日本設計六鹿社長による斎鎌の儀、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、大山萬夫同窓会長による斎鎌の儀、清水建設株式会社宮本社長による斎鎌の儀が行われた。続いて熱田理事長、金子学長、井出吉信建設担当常務理事その他の代表により玉串が神前に奉奠され、式典は無事終了した。所を改め、午前11時30分より東京ドームホテル42階シリウスの間にて直会が開催され、熱田理事長、金子学長、株式会社日本設計六鹿社長、清水建設株式会社宮本社長の挨拶に続き、柳澤孝彰副学長の音頭で出席者一同杯をあげて着工を祝福し、工事の安全と本計画の成功を祈った。なごやかな歓談の後、野崎 弘理事による手締めによってお開きとなった。



斎鎌の儀を執り行う熱田理事長、金子学長、大山同窓会長(左から):平成23年2月19日(土)、さいかち坂校舎(仮称)建設予定地

### ■大学院入学試験Ⅱ期実施

平成23年2月19日(土)午前9時30分より、千葉校舎において、平成23年度大学院入学試験(Ⅱ期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、口腔がん専門医養成コースの試験も実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試

験・面接が行われた。今回は、志願者13名(一般12名、口腔がん専門医養成コース1名)が受験し、2月24日(木)正午に合格者の発表が行われた。

### ■第101回歯科医学教育セミナー開催

平成23年2月21日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第101回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「統合科目「発生病態学」について 一構築と評価一」と題し、井上 孝教授(臨床検査学研究室)、村上 聡 助教(歯科医学教育開発センター)、山本茂樹講師(歯周病学講座)、古谷義隆助教(口腔インプラント学講座)、薬師寺 孝助教(口腔外科学講座)、石井武展助教(歯科矯正学講座)より報告が行われた。

はじめに、井上教授より、統合科目としての「発生病態学」のコンセプトについて説明がなされた。続いて、村上助教より、2002年4月の開始以来の発生病態学における様々な授業改善を目的とした試行錯誤の経緯と今年度の取組について、授業評価アンケートの結果を踏まえて報告がなされた。

その後、山本講師、古谷助教、薬師寺助教、石井助教により各自が担当した授業での工夫やその効果および課題などについて報告がなされた。山本講師からは、歯周組織の発生と病態について臨床例を提示しながら、少しでも臨床と基礎を関連づけていく授業を行ったが、学生のモチベーションの向上について課題が挙げられた。古谷助教からは発生病態学で学習する統合科目としての考え方はインプラント学のような臨床における統合的なテーマを扱う場面においても活用できることが述べられた。薬師寺助教から、動画を交えた講義を行うなどの授業の工夫が挙げられた。石井助教からは、学習に対する学生が抱いているイメージと課題について自身の学生に対する姿勢で心がけている点について述べられた。

全体を通じて、学生は統合科目の位置付けについては一応の理解がなされているものの、課題としては、従前の講義や講義に基づくPBL(hybrid PBL)形式の演習では、病態学と発生学の関連についてじっくりと考えたりするよりも、試験のための知識を効率よく学習すること、病態について背景も含めて熟考するよりも、いきなり臨床的な治療の実際に関する項目について学習したがる傾向にあり、グループでの学習においても課題をた

だこなすことで済ませてしまい、事象やその関連性について深く考えたり、自分で責任を持って理解し学習しようとする学生が少ない傾向にあることが指摘された。系統科目で得た知識を学生自身が組合せ、再構築していくことで統合科目としての意義も再認識できるような魅力ある授業の展開が求められた。こうした試行錯誤の取り組みが実を結ぶよう今後さらなる教育の質向上につなげていくとのことであった。



説明する村上助教:平成23年2月21日(月)、千葉校舎第2教室

#### ■平成22年度第10回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年2月28日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度第10回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「感染予防・手洗い実習の総評」と題し、感染予防対策チーム委員の高久勇一朗助教(口腔外科)より、平成22年12月20日(月)に開催された院内感染予防対策としての手洗い実習の結果の解説を行った。

先の実習においては、特殊蛍光ローションを塗布した上で手洗いを各自で行い、通常の手洗いでは分からない洗い残しの部位を蛍光ライトで確認



講演する高久助教:平成23年2月28日(月)、水道橋校舎13階B教室

し、記録した。今回は、その記録をした部位を集計し、手指のどの部位において洗い残しが多いかを示し、今後の手洗いにおける注意点の説明を行った。その上で、水道橋病院感染予防指導チーム委員会が作成した手洗いビデオを放映し、正しい手洗いを再確認した。

正しい手洗いが出来ているかは、定期的に全職員が繰り返し確認することが必要であり、各自がより確実に手洗いを行っていく必要性を再認識することができた。

#### ■第323回大学院セミナー開催

平成23年3月2日(水)午後6時より、千葉校舎第3教室において、第323回大学院セミナーが開催された。今回はSchool of Dentistry, University of Southern California, Associate Professor Dept. of Orthodontics, Dr. Glenn T Sameshimaをお迎えして、「Update for root resorption」と題した講演を伺った。

講演は、まず歯科矯正治療における歯根吸収のリスクファクターを臨床的見地から聴講者にわかりやすくご説明いただいた。それをふまえ、先生ご自身の膨大な臨床研究データをご紹介していただき、診断時における歯根吸収の予測を年齢、性別、人種、医院、治療期間、抜歯・非抜歯、ブラケットサイズ、歯根の形態、OB・OJなど臨床想定されるあらゆる要因から述べていただいた。さらに、治療中歯根吸収が生じた場合の対処法などをご教示いただいた。歯根吸収は、矯正歯科医を悩ませる医原性要因の一つである。この問題に対してのエビデンスに基づいた最新の知見を知ることができ、研究面だけでなく臨床応用においても、大変有意義な講演であった。臨床に直結した研究の有用性



講演されるSameshima先生:平成23年3月2日(水)、千葉校舎第3教室



を改めて認識することができるものであった。

### ■平成22年度千葉病院第2回保険講習会開催

平成23年3月3日(木)午後6時より、平成22年度の千葉病院第2回保険講習会が開催された。今回は千葉病院のカルテ記載の指導をお願いしているカルテ指導委員会の先生方に、日ごろの指導内容を基調にした「カルテの記載について」をテーマにご講演いただいた。

始めに高野伸夫千葉病院長より挨拶があり、続いてカルテ指導委員会総括委員長の黒須 誠臨床教授よりカルテ記載の重要性について説明をされた。講演は千葉病院非常勤講師の北浦利明先生、堀川晴久先生が担当された。

北浦先生はカルテ1号用紙の表と裏の記載のワンポイントを具体的事例から講演された。たとえば、傷病名のPer(歯根膜炎)は、その病態(急性か慢性か?単純性か化膿性か?)を記載する。主訴は患者さんのことばで記載する。既往歴、現病歴、現症等には空欄を作らない、特になければ特記事項なしと記載するなど基本的なことを説明いただいた。

また、堀川先生は実際の症例を基にカルテ2号用紙の記載について治療の流れに沿って講演され、歯科疾患管理料、歯周組織検査、除去等は算定要件をわかりやすく説明いただいた。そしてSOAPの記載の要点について、Sは患者さんの訴えをよく聞く、Oは検査、処置、手術、投薬等の必要性が理解できるような所見を記載する、Aは治療の流れが理解できるような評価内容の記載をする、Pは処置、手術中等に異常があった場合はその旨の記載をする、との話をされて講演を終えられた。

### ■平成22年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成22年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成23年3月7日(月)、千葉校舎講堂において開催され、教員、大学院生をはじめ、名誉教授、出版報道関係者等140名余りが参加した。

ワークショップは、石原和幸教授(研究機器管理部長)の司会で開会し、まず、平成18年度から22年度におけるプロジェクト7「口腔アンチエイジングによる生体制御」について、5つに分かれた各研究グループから、それぞれの研究成果の報告

がなされた。今回のプロジェクトで得られた研究成果は、今後第9プロジェクト、第10プロジェクトとして、継続して研究を展開する予定である。

次に下野正基教授による「細胞間結合装置と口腔の機能・病態」と題した特別講演が行われ、デスマゾーム、ヘミデスマゾーム、ギャップ結合、タイト結合の構成分子などの話題をはじめ、先生のミラノ大学留学から現在に至るまでの40年間に及ぶ研究と最新の知見が報告された。

最後に、プロジェクト8「上皮からみた口腔機能の特異性基盤の概要と疾患制御」の研究進捗状況について、コーディネーターの吉成正雄教授による概要説明のほか、2つの研究グループのリーダーによる研究内容の説明および進捗状況に関する報告が行われた。



ワークショップ風景:平成23年3月7日(月)、千葉校舎講堂

### ■平成22年度第11回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年3月10日(木)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度第11回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、保険診療に関する研修会として、診療録の記載に関してご指導頂いている水道橋病院診療録指導委員会総括委員長黒須 誠臨床教授をはじめ同委員会幹事委員の遠藤孝平非常勤講師、中西國人非常勤講師、塩津二郎非常勤講師および高橋敬人非常勤講師にお越し頂き、今年度の指導内容について講評を受けた。

講演会に先立ち、一戸達也水道橋病院長より、指導委員の先生方に対し、日頃の指導に対する御礼の挨拶があった。続いて黒須臨床教授より挨拶の後、正確な診療録を記載することの重要性と必要性について総括的な指導が行われた。引き続き、塩津非常勤講師による「平成22年度診療録指導委

員会「1年間のまとめ」と題した講演が行われた。

講演では、初診時の患者の主訴に始まり、診察、検査、診断、治療計画および治療経過の流れを一口腔単位で詳細に記載することの重要性について解説された。更に、診療録の記載内容について、歯冠修復処置、歯周疾患に対する処置並びに補綴処置などについて具体例を挙げ、記載内容の不備な点について指摘があった。また、講演では、紹介医との医療連携についての指導もあり、患者が紹介状を持参して来院した場合には、初診来院したことの報告のみならず、診断、治療計画の立案時、その後の治療経過、治療結果並びに今後の療養などについて、その都度遅滞なく紹介医に報告することが、より良い医療連携を保つために極めて重要な点であることが指摘された。最後に、診療録とは患者にとって重要な病歴の記録であり、また医師、歯科医師にとっては単に診療報酬を請求する基本資料とするために記載するのではなく、個々の患者の貴重な症例の記録であり、大学病院に勤務する我々にとっては教育用資料でもあると説明し、より充実した診療録になることを期待するとして講演を締めくくった。

今回の講演は、医療系職員のみならず事務系職員にも日頃の業務で直ちに活用しなければならない事項であり、参加者は終始熱心に聴講し大変有意義な研修会であった。



講演される塩津非常勤講師: 平成23年3月10日(木)、水道橋校舎13階B教室

#### ■石崎 憲講師 IADR Prosthodontics Group のPre-Prosthetic Regenerative Science Award最優秀賞受賞

2011年3月16日から19日までサンディエゴで行われた89th General Session & Exhibition of the IADRにて、有床義歯補綴学講座の石崎 憲講師が、Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic

Regenerative Science Awardにおける最優秀賞に選出された。発表は「Peripheral blood mononuclear cell promotes function of osteoprogenitor cells in vitro」というタイトルであった。近年ではインプラント埋入前の骨造成術などの補綴前処置の必要性が高まる反面、その術式の煩雑さ、治療効果の不確かさ、適応症の限界など未だ多くの問題が残されている。これらの問題に対し、骨補填材の開発、PRPやPRGFなど自己由来生体材料を利用した治療法の開発などが現在も続けられている。今回のIADRでは骨再生機能向上のための細胞治療の探索を目的として、末梢血単核球細胞共培養条件下の骨髄由来骨芽細胞様細胞の動態を検索し、in vitroにおいてPBMCは骨芽細胞様細胞の機能表現型を向上させることを発表した。

なお、賞金の1,000ドルは東日本大震災への義援金としてすべて寄付された。



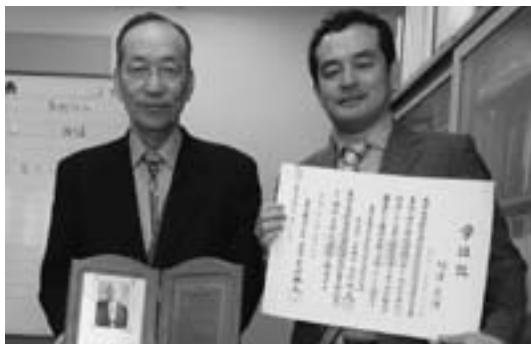
受賞した石崎講師(左)と櫻井 薫教授(右):平成23年3月17日(木)、アメリカ・カリフォルニア州・サンディエゴ

#### ■相澤光博診療放射線技師 博士論文で丹羽保次郎賞を受賞

水道橋病院放射線科の相澤光博診療放射線技師が、病院勤務の傍ら在籍していた東京電機大学大学院先端科学技術研究科を修了し、平成23年3月18日(金)の学位授与式で博士(工学)を授与された。同時に博士論文「CT画像からの歯の抽出と表示法に関する研究」が丹羽保次郎賞を受賞した。丹羽保次郎賞は故丹羽保次郎博士の功績を記念して、大学院修了者から優れた研究成果に授与される。

受賞対象となった研究は二つの研究からなり、ひとつ目は3次元画像に加重平均処理することで口腔顔面領域に特有の微細な構造物の観察に有効な画像表示法を開発した。ふたつ目は濃度情報とエッジ情報を併用した3次元的な領域拡張法を考案し、CT画像から歯を自動抽出して精度向上に

貢献した。研究は現在も継続して進行しており、今後の研究発展が期待されている。



受賞した相澤技師（右）と指導教員の東京電機大学・村上伸一教授（左）：平成23年3月18日（金）、東京電機大学

### ■第104回歯科医師国家試験結果

第104回歯科医師国家試験は、平成23年2月5日（土）・6日（日）の両日に実施され、3月22日（火）に合格者が発表された。今回は、全国で3,378名が受験し2,400名が合格。今回の試験の合格率（全国平均）は71.0%となっており、昨年の合格率を少し上回るが、昨年度と同様、厳しい試験結果となった。

その中で、本学からは平成23年3月卒業の第116期生125名、既卒者13名の計138名が受験、見事114名が合格した。合格率は82.6%（新卒者のみは86.4%）で、私立歯科大学・歯学部17校の中での合格率は1位であり、国公立大学を含めた総合順位は第10位となった。

### ■平成22年度千葉病院臨床研修ワークショップ開催

平成23年3月23日（水）午前9時より、千葉校舎・実習講義室において平成22年度東京歯科大学千葉病院臨床研修ワークショップが開催された。

今年度は、「我が国における歯科医師臨床研修の問題点」、「千葉病院における研修プログラムの問題点」、「研修歯科医のモラルについて」の3つのテーマについて討論および発表を行った。ワークショップの運営は角田正健研修管理委員長、高橋俊之研修管理副委員長、高瀬保晶研修管理委員、杉戸博記研修管理委員、山倉大紀研修管理委員、杉山利子研修管理委員、亀山敦史研修管理委員が担当した。

ワークショップは角田研修管理委員長の挨拶、杉戸研修管理委員の概要説明後、出席した研修歯

科医総勢97名が12グループに分かれ、各グループがテーマについて研修歯科医の立場から問題点を抽出し、抽出した問題点の対応と解決策を考察した。その後、各グループで討論した内容について発表および質疑応答を行った。

質疑では歯科医師臨床研修制度の疑問、千葉病院のプログラムに対する率直な意見、研修歯科医のモラルについて活発な質疑応答が行われ、今後の千葉病院の歯科医師臨床研修の見直しに大いに有意義となった。すべての作業が終了した後、角田研修管理委員長より総評があり、午後5時35分にワークショップは無事に終了した。



各グループに与えられたテーマについて問題点の抽出を行う研修歯科医：平成23年3月23日（水）、千葉校舎実習講義室

### ■千葉校舎防災訓練実施

3月11日（金）午後2時46分に発生した東日本大震災では、これまで積み重ねてきた防災訓練の成果が発揮されることとなった。幸いなことに、震災時には建物の倒壊や火災の発生はなかったため、避難、誘導は実際には行われなかったが、各部署の火元責任者からは、各々の部署の状況について防災センター（管理棟守衛室）へ詳細な報告が寄せられ、建物内の被害状況を素早く把握することが可能となった。その後も頻発する余震に、防災センターと本学教職員が一丸となって対応し、非常なる局面を乗り越えることができた。そのような中、3月25日（金）に行われた訓練では、千葉市より新しく設置された防災無線機を用い、模擬交信訓練を実施した。参加者は、いまだに緊張感漂う防災センターの中で、災害時に一番求められるであろう冷静さを保ち、適切かつスピーディーに訓練を行っていた。これは、訓練ではない本当の大地震発生に対して取り組んだ経験からもたらされたものであり、今後の活動にも充分活

かされていくことであろう。



真剣に訓練を行う参加者:平成23年3月25日(金)、千葉校舎管理棟総合管理室

### ■平成22年度大学院歯学研究科修了式開催

平成23年3月25日(金)午前11時より、平成22年度大学院歯学研究科修了式が、千葉校舎第一会議室において行われ、本年度大学院修了生38名が出席した。最初に東日本大震災の犠牲者への黙祷が行われた後、この日のために準備したアカデミックガウンと帽子を装い、金子 譲学長より修了証が授与された。最後に、2回に分けて記念写真を撮影し、式は終了した。その後、修了生は恩師を囲んで思い思いに記念撮影を行っていた。



修了式後の記念撮影:平成23年3月25日(金)、千葉校舎第一会議室前

### ■平成22年度第12回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年3月28日(月)午後6時より、水道橋校舎血協記念ホールにおいて、平成22年度第12回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「個人情報保護管理マニュアルの読み方」と題して、水道橋病院個人情報保護委員長である古澤成博准教授(総合歯科)が講演した。

講演では、まず個人情報の定義について写真を例示しながら説明し、個人情報の適切な利用の流れおよび院内で定めた個人情報の保護方針および個人情報に関連する諸規程の概要について解説した。また、研修医や学生が診療を行う際には患者さんに説明をしないといけないのか、症例検討会で患者さんの資料を使うことは問題にならないか、学会で患者さんの症例写真を見せる場合同意が必要なのか等の具体例について、的確に説明した。

参加した教職員は、各自持参したマニュアルを参照しながら熱心に聴講し、あらためて個人情報保護の重要性を認識した様子で、大変有意義な研修会であった。



講演する古澤准教授:平成23年3月28日(月)、水道橋校舎血協記念ホール

### ■平成22年度臨床研修修了式開催

平成22年度の臨床研修修了式が、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成23年3月24日(木)午前10時より、千葉校舎実習講義棟3階歯科臨床研修医室において、平成22年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。

式は高橋俊之研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長から修了者を代表して、内山沙姫臨床研修歯科医に修了証が授与された。引き続き高野千葉病院長による訓辞、

角田正健研修管理委員長の挨拶が行われ、修了式は無事に閉式した。

閉式後、3月で定年退職を迎えられる角田研修管理委員長へ研修が無事に修了した感謝の気持ちをこめて研修歯科医より花束が贈呈され、それに応えて角田研修管理委員長より研修歯科医に向けて温かいエールが贈られた。

市川総合病院では平成23年3月24日(木)午前8時30分より市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修医修了式が合同で行われた。式は司会の間部克善事務部長の開式の辞により



研修歯科医に対して温かいエールを贈る角田研修管理委員長:平成23年3月24日(木)、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室



修了証を授与する安藤市川総合病院長:平成23年3月24日(木)、市川総合病院第2・3会議室



水道橋病院歯科医師臨床研修修了者:平成23年3月22日(火)、水道橋校舎13階C教室

始まり、安藤暢敏市川総合病院長から研修修了者(医科9名、歯科8名)に修了証が授与された。引き続き安藤市川総合病院長の訓辞が行われ、その後西田次郎副病院長(研修管理委員長)、山根源之歯科研修管理委員長の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成23年3月22日(火)午前9時より、水道橋校舎13階C教室において行われた。式は司会の古澤成博研修管理委員長の開式の辞に続いて、高野正行水道橋病院副病院長より研修修了者11名に修了証が授与された。引き続き、高野水道橋病院副病院長より訓辞をいただき、2月14日(月)に開催された「平成22年度臨床研修歯科医症例報告会」の優秀賞3名(小野智嗣、山本真志、吉田香織)を発表し、高野水道橋病院副病院長より受賞者に記念の楯を授与し修了式を閉式した。

平成23年2月21日

## 教職員への移転関係報告（9）

理事長 熱田 俊之助  
学 長 金子 讓

教職員 各位

### 大学移転計画に係る契約締結式及び起工式の実施

大学の移転計画については、建築請負業者が決定した旨すでにお伝えしているところですが、今般、平成23年2月16日（水）午前10時より、水道橋校舎5階特別会議室において清水建設株式会社との契約締結式を挙行いたしました。

また、平成23年2月19日（土）大安 午前10時より、さいかち坂校舎（仮称）建設予定地にて起工式を厳粛に執り行い、移転計画の成功と工事の安全を祈願いたしましたのでご報告いたします。教職員各位におかれては、今後とも本計画の推進にご協力をお願いいたします。



契約締結式：平成23年2月16日（水）、水道橋校舎5階特別会議室



起工式：平成23年2月19日（土）大安、さいかち坂校舎（仮称）建設予定地

# 長期海外出張者報告

## ■千葉病院総合診療科 講師 亀山 敦史

私は、平成22年3月1日から平成23年2月28日までの1年間、ベルギー王国立 ルーヴェン・カトリック大学にて研究活動を行う機会をいただきました。

ルーヴェン・カトリック大学は1425年、ローマ教皇のマルティヌス5世によって創立された世界最古のカトリック系大学であり、現在でもヨーロッパ有数の名門大学として知られています。ベルギーでは、北部のオランダ語圏（フランダース地方）と南部のフランス語圏（ワロン地方）との間で古くから言語対立が続いています。このためルーヴェン・カトリック大学も1968年以降、オランダ語を母国語とする Katholieke Universteit Leuven (K. U. Leuven) と、フランス語を母国語とする Université Catholique de Louvain (UCL) に分離されました。両校ともに歯学部が存在しますが、私はフランダース地方にある K. U. Leuven に在籍しました。

私が研究活動を行った Leuven BIOMAT Research Cluster は、歯科補綴学講座と歯科保存学講座が合同で運営を行っている歯科用生体材料の研究部門であり、生体硬組織と歯科生体材料の接合界面における解析を主なテーマとして研究が行われています。この中で、私は接着歯学の分野で世界的に有名な Bart Van Meerbeek 教授（歯科保存学講座）の指導のもと、歯科用修復材料とレジジン系接着材料との接着について研究させていただきました。

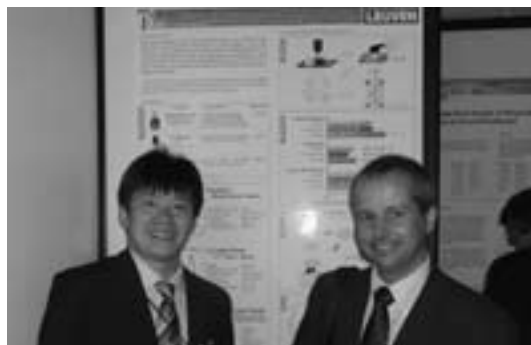
近年、CAD/CAM を用いたセラミックインレー修復が歯科臨床で広く応用されるようになりましたが、まず、この際の接着技法に関する検討を行いました。CAD/CAM インレー修復では、マージン部のセメントが摩耗しやすいことが知られています。これは歯科技工士によって作製されたものに比べてセメント層が厚くなる傾向にあること、セメントそのもののフィラー含有量が少ないことなどが原因と考えられます。この欠点を補うため、直接コンポジットレジジン修復法で用いられる接着材料と前臼歯両用コンポジットレジンを併用し、抜去歯に形成された規格窩洞へのセラミックインレーの接着を試みました。その結果、この

方法は通常の方法に比べてはるかに高い接着強さを示し、また接着界面における構造欠陥も少ないことがわかりました。

次に、エナメル質・象牙質のスマイヤ層の厚みが初期接着性および接着耐久性に与える影響について検討を行いました。ダイヤモンドポイント切断面、耐水研磨紙（#600）研削面、および切断面に対し、3ステップタイプ（3-E&R）、マイルド2ステップセルフエッチングタイプ（2-SEA）、ならびにマイルド1ステップタイプ（1-SEA）の接着システムを用いてコンポジットレジンを接着させ、7日後の初期接着強さ、およびサーマルサイクリング（5℃、55℃）20,000回の負荷を与えた場合の接着耐久性を検討いたしました。その結果、3-E&R、2-SEA では被着面の違いが初期接着強さや接着耐久性に影響しなかったものの、ダイヤモンドポイントにより厚いスマイヤ層を形成した象牙質面に1-SEAを応用すると接着耐久性が低下することを明らかにすることができました。

さらに、近年需要が伸びつつあるジルコニアセラミックスと接着性レジンセメントとの接着強さについての研究も行いました。特に、機械的および化学的な被着面処理の有効性について検討した結果、トライボケミカル処理とリン酸エステル系の接着性モノマーによる処理を組み合わせることが接着性の向上に有効であることがわかりました。

なお、出張期間中の平成22年7月15日から17日には、スペイン・バルセロナで開催された IADR General Session に参加し、金子学長をはじめ、本学から参加した多くの先生方とお会



Annual Meeting of the Academy of Dental Materialsで発表したポスターの前で、Bart Van Meerbeek教授とともに。

いすることができました。また平成22年10月8、9日には、イタリア・トリエステで開催された Annual Meeting of the Academy of Dental Materials に出席し、渡航前に日本で行った「Mechanical strength of dental adhesives cured by violet laser diode」の研究結果について、ポスター発表を行ってまいりました。

このたび、長期にわたる海外出張の機会を与えてくださった東京歯科大学、および本学の関係の方々に深く感謝申し上げますとともに、この出張で得た貴重な経験を本学での教育、研究、ならびに臨床で役立てることができるよう、努めてまいりたいと考えております。

## トピックス

### ■クラス会（三春会:昭和60年卒業）より大学へのご寄付

昭和60年卒業のクラス会三春会（さんしゅんかい）一同より、大学へ120万円が寄付された。

平成23年3月3日（木）、水道橋校舎理事室において、三春会会長の湯澤邦裕先生、副会長の片倉 朗先生から水道橋校舎施設整備資金として金120万円が熱田俊之助理事長、金子 譲学長に手渡された。

三春会では、昨年11月の卒後25周年同窓会にて、母校の水道橋移転事業を応援する寄付の提案がなされ、会員の総意として今回の寄付につながったとのことである。

三春会からは、「今回の寄付は、母校のさらなる発展と燦たる未来を願うものであり、水道橋移転、特に同窓会員も利用する機会が多くなるであ

ろう新血協ホールの付設をバックアップしたいというクラス会の思いがこめられた寄付である。」とのお話をいただき、和やかなうちに贈呈式が執り行われた。



熱田理事長、金子学長へクラス会（昭和60年卒業:三春会）より寄付金を手渡す湯澤先生（中央左）と片倉先生（左）:平成23年3月3日（木）、水道橋校舎理事室

## 東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）関連

### ■東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）における3キャンパスの状況報告

平成23年3月11日（金）午後2時46分、東北・三陸沖を震源とする巨大地震が発生、地震と津波により東北・関東太平洋沿岸部に甚大な被害をもたらされた。この地震は国内観測史上最大規模の地震で、規模は関東大震災（関東地震）のマグニチュード7.9を大きく上回る9.0であった。最大震度7が宮城県で観測され、本学3キャンパスの地域においても震度5強の地震が発生した。

この地震とそれに伴って発生した大津波は東日本に未曾有の被害をもたらし、特に震源地に近い岩手県、宮城県、福島県での被害は甚大であった。茨城県、千葉県においても被害が大きく、この地震と津波による犠牲者は3月31日現在で死者、行

方不明者を合わせて2万5千人を超え、全壊・半壊した建物は7万戸を超えている。現在も行方不明者の懸命な捜索は続けられている。

また、地震と津波により東京電力福島第一原子力発電所が破壊される事故が発生し、電力供給不足による広範囲にわたる計画停電が実施された。

福島原発の事故は放射性物質の飛散や放射能汚染水が海に流出するなどの事態を引き起こし、20km圏内の人々は避難を余儀なくされた。懸命な復旧作業は行われているが、放射能濃度が極めて高い場所での作業は困難を極め、事態収拾のため大量の放射能物質汚染水の海への放出も行われ、全世界が日本の動向を注視している。

この度の地震による強い余震がその後も広範囲で多発し、今なお不安な日々が続いている。



なお、本学は学生・教職員全員の無事を確認し、本学としての東北地方太平洋沖地震に対する支援を迅速に開始した(詳細：29・30頁)。

### 【地震による3キャンパスの状況】

千葉校舎の被害としては、大駐車場・グラウンドの液状化現象によるアスファルト・地面のひび割れとそれに伴う砂泥の噴出、校舎内舗装道路のアスファルト隆起によるひび割れ(3箇所)、そして、隣接する民家との境界にある塀が2箇所において一部倒壊したことが挙げられる。

また、建物自体に損壊はなかったが、建物と地面の接合部では、コンクリートの隆起やひび割れがあった。

図書館にも大きな被害をもたらした。大学図書館、市川図書館分館、水道橋分館の各館で書架から多くの資料が落下したが、幸い利用者に怪我はなかった。本館では閲覧室での落下が多く、約15,000冊の資料が床に散乱した。11日午後から16日午前まで臨時閉館とし、復旧作業を行った。資料の破損等は現在判っているだけで約50冊。各館とも早急に対応したので、図書館の利用は可能になっている。

千葉病院では、病院棟全体で今までに体験したことのない激しい揺れを感じ、診療を中断して待機するよう指示する放送が行われた。その後も余震が続き、午後3時15分には茨城県でも震度6の地震が発生したため、高野伸夫千葉病院長の指示により、当日の診療を中止して外来患者を帰宅させた。また、安全が確認できるまでの間、重篤な患者等を除く入院患者22名や教職員を、管理棟玄関前のロータリー付近や講堂脇の芝生に一時避難させた。

その後も余震は続いたが、大きな余震はおさまったため、午後4時過ぎに中川寛千葉病院副院長からの指示により教職員は施設内に戻り、停止していたエレベーターの復旧後、午後4時30分頃には入院患者も病棟に戻した。午後5時過ぎには教職員に対し、各部署の所属長の指示に従い、安全を確認しつつ帰宅するよう指示があったが、多くの公共交通機関が地震の影響で停止していたため、自宅に帰れなくなり病院施設内に宿泊した教職員もいた。

病院棟においては、施設面で一部軽微な損傷はあったものの、電気、ガス、水道等が止まることも



液状化で一面が水と泥砂で覆われた千葉校舎グラウンド:平成23年3月11日(金)



液状化で広範囲に渡って水と泥砂で覆われた千葉校舎大駐車場側駐輪場:平成23年3月11日(金)



液状化で広範囲に渡って水と泥砂で覆われた千葉校舎大駐車場:平成23年3月11日(金)



地震によりアスファルトが割れて隆起した大駐車場入り口の道路:平成23年3月11日(金)

なく、患者および教職員にも負傷者はいなかった。

翌週からは、東京電力による計画停電に対応するため、3月14日（月）は午前中を休診、午後は4時までの診療体制とし、入院・手術予定も大幅に中止、変更したが、15日（火）には午前中の診療を再開し、現在では通常通りの診療を行っている。

市川総合病院では、「市川総合病院災害対策マニュアル」の震度5以上の地震発生時の行動規定に基づき、「地震情報と被害状況報告」について全館放送を行い、同時に防災センターに「災害対策

本部」を召集し被害の収集および対策にあたった。

また、警備員により全機停止していたエレベーター（籠内）に閉じ込められている者の状況確認を行ったが、全員退避しており閉じ込め者の報告は無かった。

その後、災害対策本部に各部署より被害状況報告がされたが、幸いにも負傷者などの報告は無かったものの、病棟では小型冷蔵庫やパソコンなどの落下、図書室・カルテ庫では本やカルテの一部落下の報告があった。建築・設備関係では外壁



地震により地割れが発生した教養棟と大駐車場間の道路:平成23年3月11日（金）



震災後に閲覧室書架から落ちた図書の数々:平成23年3月11日（金）、千葉校舎図書館閲覧室



地震により大きく傾いた電柱と液状化で泥砂が大量にあふれた道路:平成23年3月11日（金）、千葉校舎近くの稲毛海岸通り



震災後に第二書庫（集密書架）から飛び出た雑誌:平成23年3月11日（金）、千葉校舎図書館第二書庫（体育館内）



千葉病院6階の病室から避難した入院患者等:平成23年3月11日（金）、千葉校舎講堂脇



1階エントランスホールへ避難した入院患者等:平成23年3月11日（金）、水道橋病院

タイルの剥がれや壁の一部亀裂、また空調設備の小破損などが見うけられたが、災害・停電などの大きな災害は無かった。

以上、震災時の状況報告の他に、市川総合病院では何よりもその後発生した福島原発災害による計画停電の影響で、診療・手術などが出来なくなり患者には大変迷惑を掛けた。

千葉県の地域災害拠点病院として認定されているながら、計画停電の影響で役割が果たせないことに病院側として大変苦慮している。

水道橋病院では地震発生直後には、患者に最低限の処置をした上で速やかに診療を中止する旨を各科に指示し、全ての外来患者を3階総合受付に集めた。その上で、患者に状況説明をし、1階エントランスホールへ避難・誘導を行った。患者にはテレビ・ラジオで情報を提供し、帰宅可能な方は各自の判断と責任で帰宅していただいた。並行して、入院患者や全身麻酔の覚醒中の患者を、全教職員が協力して1階に医療機材とともに避難・誘導を行った。

院内各所の安全を確認の上、午後5時までに入院患者を病室に戻し、帰宅できないことが予想さ

れる患者を3階待合ホールに誘導した。教職員は戸達也水道橋病院長、片倉 朗医療安全管理室長から今後の対応について指示を受けた後解散した。午後6時30分に、帰宅不可能な外来患者に食事(おにぎり、みそ汁、コーヒー、お茶)を提供するとともに、約20名の方に空いた病室を提供し宿泊していただいた。また、帰宅不可能な教職員ならびに再度の地震発生に備えてドクター・医療職員等約30名が院内に宿泊した。翌朝7時に、宿泊された外来患者に朝食を提供の上、順次帰宅していただいた。

14日(月)午前7時30分、病院幹部会で停電に対応した診療体制を決定し、午前8時40分に出動した教職員へ説明した。併せて、交通機関の事情によって通常のスタッフ配置が困難となり万全の安全体制の確保ができないため、当面1週間程度、診療規模を縮小する旨を患者へ連絡し、ホームページ上にもアップした。

院内施設においては、別館への通路(3階)に多少の段差が生じ、壁面数十箇所に亀裂が入ったものの、大きな被害はなかった。

## ■東北地方太平洋沖地震に対する東京歯科大学としての支援開始

今回の大地震による被災に付き、各所属長を通じご賛同ご了解を頂きました支援(下記番号2以下総額498万円:来年度の福利厚生費より拠出)を本学教職員が一丸となって実施いたします。

1. 本年度卒業の116期生からの義援金100万円を朝日新聞千葉支社を通じ委託(済)
2. 本学から義援金として100万円を新聞社を通じ委託(済)
3. 全国歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会からの要請によるOral Care用品として50万円相当分の支援を予定していたが、担当大学から十分に集まったとの連絡を受け、用意した品全てを日本歯科医師会を通じ支援(済)
4. 日本歯科医学会からの要請による支援として20万円(被災地3大学・歯学部へ)(送金済)
5. 被災地出身の教職員に対する支援(被災状況により順次支援中)
6. 被災地出身の学生に対する支援(被災状況の調査がほぼ完了)
7. 被災同窓生への支援を準備中(被災状況を調査中:死亡者0、家屋の被害6件)(被害状況に応じ、各支部長に委託予定)
8. 本学120周年記念事業に20万円以上の寄付をしてくださった先生へのお見舞い(予定)
9. 各キャンパス(千葉、水道橋、市川)に義援金募集箱を設置(済)

その他の支援

1. 宮城県警察本部ならびに日本法医学会からの依頼による歯科的個人識別に対し、法歯学講座より2名(花岡洋一准教授、中村安孝助教)派遣(第1回目:3月13日から19日:2回目以降の要請に付いても対応)

註:日本歯科医学会から身元確認調査のための派遣依頼がきましたが、その時点では既に派遣済であっ

たので、その旨を連絡し同会が了承済み。しかし、同会が配布した派遣者一覧には「東京歯科大学は派遣者0」と誤解を招く表示になっていることをご了承下さい。

なお、外務省の要請によりニュージーランド地震における歯科的個人識別に橋本正次教授を派遣（2月25日から3月15日）

※上記の1と2について、次のとおり新聞に掲載されました。

1.朝日新聞(3月29日(火)朝刊、千葉版)に記事が掲載

[http://mytown.asahi.com/chiba/news.php?k\\_id=12000011103290001](http://mytown.asahi.com/chiba/news.php?k_id=12000011103290001)

2.読売新聞(4月7日(木)朝刊、東京版)「東日本大震災救援募金」名簿欄に掲載

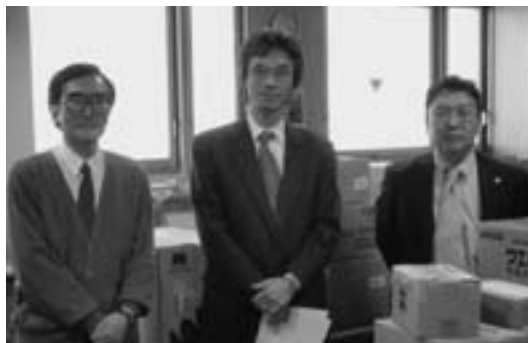
※上記3について

今回準備した震災被災地への支援物資について、当初は日本歯科医師会を通して被災地へお届けする予定でしたが、被災地での物資の仕分けが追いつかず、現時点では被災地での物資の有効活用が望めないとの日本歯科医師会からのご回答をいただきました。

そこで、日本歯科医師会担当役員と相談の上、現在、多くの被災者が避難している埼玉県へ同県歯科医師会を通して物資を支援することといたしました。4月1日(金)埼玉県歯科医師会事務局へ、一戸達也法人主事・水道橋病院長、小林友忠水道橋病院総務課長が直接お届けいたしましたのでご報告いたします。



準備された支援物資:平成23年3月31日(木)



支援物資を届けた、一戸法人主事・水道橋病院長(中央)と小林水道橋病院総務課長(右):平成23年4月1日(金)、埼玉県歯科医師会事務局



埼玉県歯科医師会に届けられた支援物資:平成23年4月1日(金)、埼玉県歯科医師会事務局

### ■東北地方太平洋沖地震による延世大学校歯科大学からの慰問

平成23年3月28日(月)延世大学校歯科大学学長の代理として研究副学長のProf. Han-Sung Jungが来校され、このたびの東日本大震災ならびに原子力発電所の放射性物質流失事故等の多発災害を案じて、権 皓根学長をはじめ教職員、学生の皆様からの御見舞金と慈しみのメッセージを頂戴いたしました。



金子学長に御見舞金とメッセージを手渡すHan研究副学長(左):平成23年3月28日(月)、千葉校舎学長室

## ○延世大学校歯科大学の皆様からのメッセージ



## 《日本語訳》

親愛なる金子学長ならびに東京歯科大学の皆様へ

この度皆様が経験された悲劇的な災害に対し心からお見舞い申し上げます。

私たちは地震と津波の後の惨状の映像を見て、また原発による放射線への皆様のご心配を思い、胸が張り裂けるような気持ちです。皆様の悲しみや喪失感是我々の想像を超えるものです。しかし延世大学校歯科大学の教職員の思いと祈りは東京歯科大学の皆様と共にあります。

延世大学校歯科大学の学生、教職員、そして延世大学歯科病院の医師、職員からの東京歯科大学の皆様へ深い悲しみと憂慮の念をお伝えします。本日日本の皆様を思い「正式な教職員と学生の会議」に先立ち黙祷をささげます。我々は「悲しみを分かち合うことが我々をさらに幸せにする」と信じ、そして「あなた方の友人は隣にいます」というメッセージを送るという意味で、義援金を寄付させていただきます。

日本の人々がどのようにこの災害に立ち向かっているかは我々の心を深く動かし、我々は皆さんの深い人間性に学び、刻一刻何が起こるかかわから

ないこの地球上でどのように暮らすかを教えてください。被災された皆様へ感謝します。確かに震災の後、我々は誰にでもどこにいても遭遇するかもしれないということに恐怖を感じました。我々はこの恐ろしい感情に打ち勝つようにならなければなりません。我々の間の強い友情がこの忘れられない災害からの贈り物になると思います。

我々の友情をどうぞ受け入れてください。

延世大学校歯科大学  
学長 権 皓根

## [学長御礼メッセージ]

延世大学校歯科大学の迅速なご支援に対して心から御礼申し上げますとともに、本学の被災学生に対する慈愛の念に深謝申し上げます。

頂戴した御見舞金は、延世大学校歯科大学のご意向を鑑み、被災学生救済の浄財として有難く使わせていただきます。

学長 金子 謙

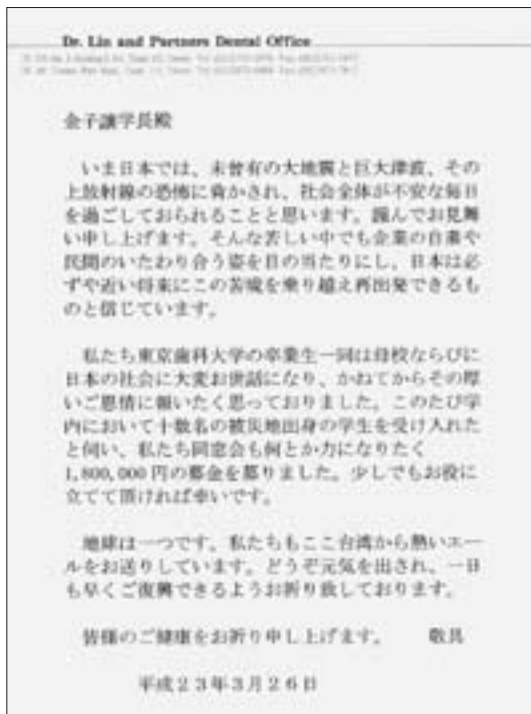
## ■東北地方太平洋沖地震による本学台湾同窓会からの義援金

東京歯科大学台湾同窓会会長 林 崇民先生より東北地方太平洋沖地震への御見舞金を頂戴いたしました。台北医学大学の学術大会に招待演者として訪台中であった石井拓男教授と佐野 司教授に林先生より託され、平成23年3月30日(水)に石井教授が帰国後大学に届けられました。このたびの東北地方太平洋沖地震ならびに原子力発電所の放射性物質流失事故等の多発災害を案じて、林 崇民先生はじめ昨年本学大学院を卒業した蔡 鵬飛先生ほか台湾在住の同窓会からの御見舞金と慈しみのメッセージを頂戴いたしました。



平成19年12月14日 台北にて 前列中央、金子学長(左)と林会長(右)

○東京歯科大学台湾同窓会の皆様からのメッセージ



<東京歯科大学台湾同窓会名簿>

- 氏名・卒業(修了)年
- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 張 肇益(H11 大学院)        | 凌 慶東(H8 大学院)  |
| 陳 盛輝(H3 大学院)         | 黄 佳明(S63 大学院) |
| 黄 麗俐(S61 大学院)        |               |
| 林 崇民(会長) (S54 大学院)   |               |
| 陳 肇華(江川 肇) (S53 大学院) |               |
| 張 崇民(S37 大学)         | 王 団輝(S22 大学)  |
| 林 学瀛(S20 大学)         | 蘇 欽煌(S17 大学)  |
| 林 明伝(S17 大学)         | 頼 光煥(S16 大学)  |
| 呉 基生(S16 大学)         | 黄 混生(S16 大学)  |
| 于 永年(S16 大学)         | 王 国華(S16 大学)  |
| 王 亜崙(S16 大学)         | 張 紳綸(S16 大学)  |
| 趙 成業(S16 大学)         | 李 蔭棠(S16 大学)  |
| 千 亨(S15 大学)          | 鄭 心葉(S15 大学)  |
| 呉 信鍛(S14 大学)         | 廖 迪輝(S13 大学)  |
| 浦 瀛岳(S12 大学)         | 張 宝文(S10 大学)  |
| 簡 金鐘(T14 大学)         | 陳 漢周(T14 大学)  |
| 洪 昭民(H2 専攻生)         | 林 明賢(H12 専攻生) |
| 蔡 鵬飛(H21 大学院)        | 黄 明裕(H22 大学院) |
| 洪 榮杰(H22 大学院)        | 柯 文昌(H22 大学院) |

[学長御礼メッセージ]

東京歯科大学台湾同窓会の迅速なご支援に対し

て心から御礼申し上げますとともに、本学の被災学生・同窓に対する慈愛の念に深謝申し上げます。

頂戴した御見舞金は、東京歯科大学台湾同窓会のご意向を鑑み、被災学生・同窓救済の浄財として有難く使わせていただきます。

学長 金子 謙

■東日本大震災による台湾有志からの義援金

平成23年4月7日(木)、第5学年の蔡 涵雅さんの台湾のご友人45名から本学被災学生に対し、蔡さんを通じ、暖かいメッセージと共に460,000円のお見舞金を頂戴しました。

頂戴したお見舞金は、被災学生救済の浄財としてありがたく使わせていただきます。

○台湾有志の皆様からのメッセージ

親愛的朋友:

在大家的慷慨解囊、情義相挺之下，我們完成這項任務，同時將各位的善心與好意傳到另一個國度，希望能夠帶給這些受災的學生感到一些溫暖。此次，我們共募得新台幣162,380整，也在蔡醫師的幫助下我們拿到一個很不錯的匯率，在4/1以0.353台幣兌1日圓，共兌成日圓460,000轉交東京齒科大學專款幫助該校受災的學生，俟後我會將換匯證明及收據轉交到每位好朋友手中，也再次的謝謝大家！

宥慈 敬上 4.5

《日本語訳》

親愛なる友達:

あなたは今まで他の国に善意、優しさを贈ってくれました。それは心を温かくしてくれました。以前、同じような被害の影響を受けた学生の何人かは、寛大、友情と忠誠心を持って162,380NT\$の寄付金を集めました。今回、ツァイ医師は私たちに非常に良い為替レートを取得するのに協力していただき、4/1に0.3531NT\$のレートで、合計額460,000円を東京歯科大学に対し寄付することができました。

大学は、受領後すぐに被災学生を助けるために、使ってください。再び皆さんにお会いできるよう望んでいます。 4.5

■東日本大震災被災地での歯科医療活動について

厚生労働省、日本歯科医師会からの要請を受け、このたびの東日本大震災で被災された皆さまの口腔ケアを中心とした歯科医療に当たるため、東京

歯科大学千葉病院の歯科医師2名(中川寛一千葉病院副病院長、歯周病学講座 藤田貴久助教)、歯科衛生士1名(植草朋美)が福島県相馬市、南相馬市を中心として歯科医療活動を行った。

4月24日(日)に福島市に到着した一行は、福島

県歯科医師会長と面談後、相馬市に向かった。相馬市では相馬市歯科医師会の方々と面会、相馬市長を表敬訪問した後、活動について協議を行い、25日(月)より本格的な活動に入った。そして現地での活動を28日(木)まで行った。

## 海外交流

### ■延世大学校歯科大学学長・副学長が本学を訪問

平成23年2月15日(火)、延世大学校歯科大学 Kwon, Ho-Keun 学長、Cha, In Ho 副学長、Choi, Seung Ho 副学長、Jung, Han Sung 副学長が本学を訪問した。延世大学校歯科大学は韓国・仁川の経済自由区(松島)で行われる教育プロジェクト(IFEZ, Education & R&D Projects)等を推進するにあたり、本学に教育プログラムへの参加を要請するため来校した。プロジェクトのプレゼンテーションには、金子 讓学長、井出吉信副学長、柳澤孝彰副学長、佐藤 亨学生部長、佐野 司国際渉外部長、東 俊文大学院教務部長、山本一郎内

部監査室長の7名が参加した。



プレゼンテーション後の記念撮影:平成23年2月15日(火)、千葉校舎特別会議室

## 国際渉外部レポート

### ■第14回学長主催留学生懇親会開催

平成23年3月2日(水)午後6時より、幕張のホテル・ザ・マンハッタンにて、第14回学長主催留学生懇親会が開催され、金子 讓学長、柳澤孝彰副学長、井上 孝大学院研究科長をはじめ、外国人留学生・研究者、指導教員、国際渉外部運営委員、留学生関連業務を行う事務職員のほか、平成22年度に英語関連行事で活躍した学生を含む総勢31名が参加した。今回は、4カ国10名の外国人留学生が出席した。3月末に学位を取得される台湾の社会人大学院生Dr. 黄 明裕(歯科麻酔学)、Dr. 柯 文昌(口腔外科学)、Dr. 洪 榮杰(臨床検査学)、およびパキスタン出身の大学院生Dr. Sultan Zeb Khan(臨床検査学)、3月末に修了する韓国出身の専修科生Dr. 崔 允榮(歯科矯正学)、バングラデシュ出身のPF、Dr. Sobhan Ubaidus (HRC)、韓国出身の学部学生、金 亨俊君と朴 世津君、台湾出身の学部学生、蔡 涵雅さんと劉 文蓉さんである。

佐野 司国際渉外部長の司会のもと、まず金子学長および柳澤副学長のご挨拶があり、その後留学生が日本語を交えながら順番にスピーチを行

い、なかには日本語で歌を披露する者もいた。次に、3月末修了の5名に金子学長から記念品が授与された後、井上大学院研究科長が閉会の辞を述べられた。最後に、金子学長を囲んで母国の国旗を手にした留学生らと参加者が記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で散会となった。



出席者全員で記念撮影:平成23年3月2日(水)、幕張、ホテル・ザ・マンハッタン

## 学生会ニュース

### ■第116期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第116期生からの卒業記念品として、新水道橋校舎竣工時の備品費用として100万円が大学に寄贈された。平成23年3月17日(木)、第116回卒業証書・学位記授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の鈴木香里さんから金子 譲学長に目録が手渡された。

### ■第116期生から東北地方太平洋沖地震被災者へ義援金

卒業式終了後に行われた記念品贈呈式の中で、平成23年3月11日(金)午後に起きた東北地方太平洋沖地震で被災された方々に義援金を送ることが発表された。

謝恩会委員長の鈴木香里さんから「本日このあと、先生方への御礼として謝恩の宴をもうける予定でしたが、先の東北地方太平洋沖地震のために中止とさせて頂きました。

謝恩会として用いる予定でありました100万円を先生方のご厚意により義援金として学校へお預かり頂くことになりました。

謝恩会は出来ませんが、この場をお借りしまして私たちに知識やたくさんの思い出を与えて下さった先生方、学生課、教務課ならびに諸職員の方々に厚く感謝を申し上げます。」と目録を読み上げ、金子 譲学長に手渡された。

※(再掲) 116期生からの義援金100万円は朝日新聞千葉支社を通じ委託しました

《朝日新聞(3月29日(火)朝刊、千葉版)に記事が掲載》  
[http://mytown.asahi.com/chiba/news.php?k\\_id=12000011103290001](http://mytown.asahi.com/chiba/news.php?k_id=12000011103290001)

### ■国医研2011ボルネオ・スタディーツアー参加報告

国際医療研究会海外スタディーツアーとして、平成23年3月15日(火)から3月20日(日)の5日間の日程で、マレーシア・サラワク州クチン(ボルネオ島)を訪れた。東京歯科大学から6名、神奈川歯科大学から2名、計8名の学生が参加した。

現地幼稚園では、ブラッシングに関する手作りの紙芝居をマレー語で披露した後、歯科検診を行い子供達に小児用歯ブラシと自分たちが子供の頃に読んでいた絵本をプレゼントした。

参加学生はツアーのはじめに、保健省にて公衆衛生の講義を受けたのち、上水道施設を案内されて水道水へフッ化物添加をする現場を見学して公衆衛生におけるマレーシアと日本の政策の違いを学んだ。一行はその足で州立病院での歯科治療を見学、また小学校ではモバイルクリニック(デンタルナース巡回チームによる歯科検診と歯科治療)とスクールデンタルクリニック(生徒数の多い学校に併設された歯科医院)を見学した。

ボルネオ島は森林破壊と野生動物の減少が大きな問題になっている。参加学生は先住民族と植林活動を通して改めて自然の大切さに気づかされた。そして、半野生のオランウータンの餌付けを体験して、自然の大切さを学んだ。

本ツアーは、学生たちがボルネオの保健医療の現状を見て、日本との違いを感じ、今後の日本の歯科医療を考えるきっかけとなる事を目的としている。本事業を通して、学生たちは、自分自身を見つめ、問題発見・問題解決能力を磨くきっかけを得たことだろう。

「スタディーツアーを終えて」

学生リーダー 第5学年 田中らいら

今回のスタディーツアーは、出発直前の3月11日に東日本大震災が発生し、開催自体が危ぶまれました。しかし、学生たちの熱意により当初の予定通り実施され、全ての日程を無事終えたことに安堵しています。

私にとって、最も強く心に残ったことは幼稚園での子供たちとの出会いです。歯科検診では上下前歯12本すべてが残根状態の子が何人もいました。愛らしい笑顔の子供たちが、口を開けると虫歯で歯がほとんどない姿は衝撃的でした。そして、そのような子どもたちは、検診を受ける際もためらいがちに口を開けます。歯が無いことは子供たちも恥ずかしいのです。逆に、きれいな歯の子は堂々と大きく口をあけてくれます。「きれいな歯だね」と先生が褒めると子供もとても嬉しそう顔をします。その時の先生は本当に嬉しそう顔をしていました。私もそれを見て本当に嬉しくなりました。

同時に、この時強く感じたことは「虫歯を作っ



たのは、この子ではなく、社会」ということです。お菓子を与え、歯ブラシを与えなかったのは周囲の環境です。現在、日本では子供の齲蝕罹患率がどんどん下がっています。それは歯科システムを含め、日本の社会によるものだと思います。私たちは学生として、現在の日本の歯科システムを学ぶだけでなく、過去を学び、他の国のシステムを学び、広い視野で日本の歯科を考えてゆかなくてはなりません。

今回、6名の学生達は国際保健という学問の一端に触れ、多くを学ぶ機会を得ることが出来ました。今後もスタディーツアーが続き更に発展し、多くの学生に、広い世界を見る機会を与えてほしいと思います。最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えてくださった方々、本当にありがとうございました。



セメング野生動物センター前にて：手前左から順に、杉浦貴則君（第1学年）、石井啓裕先生（本学OB）、塩津朋子さん（神奈川歯大 第3学年）、河角久美子さん（第1学年）、村居正雄先生（本学OB）、鈴木志帆美さん（神奈川歯大 第2学年）、川井 毅君（第1学年）、奥左から順に、田中らいらさん（第4学年）、林 士凱君（第4学年）、川勝美里さん（第1学年）、平成23年3月18日（金）



学生による紙芝居での歯科保健活動：平成23年3月17日（木）



コタセントーラ歯科クリニックの見学：平成23年3月16日（水）

## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

（本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定）

井上 孝 [ほか] 監訳 オーラルヘルスアトラスー世界の口腔健康関連地図一、口腔保健協会 2011  
井上 孝 松坂賢一著 口腔病態&身体病変の相互関係を探る、デンタルダイヤモンド社、2011  
○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

### ■外国雑誌の電子ジャーナル利用について（2011年）

本年も引き続き、次の大手出版社による電子ジャーナル（パッケージ等）が千葉、市川、水道橋

の3キャンパスから利用可能となっている。

・SpringerLink (<http://www.springerlink.com/home/main.mpx>)

Springerグループ出版社の電子ジャーナル約1,930タイトルが閲覧可能（概ね1997年から現在まで）。Springer提供の雑誌のほぼ全てを網羅しており、医学分野に限らず教養系分野の雑誌も閲覧可能となっている。

・SciVerse ScienceDirect (<http://www.sciencedirect.com/>)

Elsevier社の購読雑誌76タイトルに加え、ヘルスサイエンス分野の685タイトル、神経科学分野131タイトルが概ね1995年以降閲覧可能。Cell

Press のCellも1974年からアクセス可能となっている。

・Wiley Online Library (<http://onlinelibrary.wiley.com/>)

Wile-Blackwellの電子ジャーナルのうち、STM Collection (科学技術医学分野) 755タイトルへアクセス可能。概ね1997年以降が閲覧可能。

・Nature PublishingGroup (<http://www.nature.com/>)

Nature 本誌、Nature 姉妹誌7タイトルおよび Academic Journal等9タイトルについて概ね1997年以降、閲覧可能。

・Annual Reviews (<http://arjournals.annualreviews.org/>)

Annual Reviews 12タイトルが初号から最新まで閲覧可能。

・American Medical Association (AMA) (<http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#soja>)

AMAが提供するJAMAとArchivesシリーズ6タイトルについてアクセス可能。

この他に、歯科の雑誌をはじめとして個別タイトルの電子ジャーナルや、創刊号から利用可能なバックファイルも、多数閲覧可能となっている。上記パッケージも含めた2011年利用可能な電子ジャーナルは図書館ホームページ「電子ジャーナ

ル」項の「当館所蔵フルテキスト (A-to-Z)」より検索・アクセスできる。

### ■グループ学習室がリニューアル

図書館・視聴覚室にあるグループ学習室がリニューアルした。レイアウトを変更し、グループワークなど、複数人で話をしながら学習できるスペースとなった。パソコン、ホワイトボード、プロジェクターも利用することができる。

また、閲覧室にはMicrosoft Office2007が入ったパソコン4台を設置した。館内資料やインターネットを利用した学習に是非活用して頂きたい。



リニューアルしたグループ学習室:平成23年3月31日(木)、千葉校舎図書館2階

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■第60回卒業証書授与式挙

第60回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は、平成23年3月11日(金)午後1時より、千葉校舎講堂において厳粛な雰囲気の中で挙行された。

式は杉山哲也教務部長が司会を務め、開式の辞に始まり、国歌斉唱、高橋俊之副校長による学事報告の後、石井拓男校長から45名の60期卒業生ひとりひとりが緊張の面持ちで卒業証書を授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった羽野早紀さんに学校長賞が、中川郁美さんを代表として、安藤仁美、小関千寛、下川永恵、高菘美穂さんに優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだことを讃え、高菘美穂さんとともに、小林有希、中川郁美、仲田 愛、永田 彩、渡邊愛美さんに皆勤賞が、また、小関千寛さんをはじめ、秋山朝美、小川満優子、

下川永恵、鈴木 梓、中橋由香里、羽野早紀、藤原由紀、山本ひとみ、山本茉里さんに精勤賞が授与された。また、学外からの褒章として、千葉県知事賞が羽野早紀さんに、社団法人日本歯科衛生士会学生部員会長表彰が中川郁美さんに授与された。

石井校長の告辞に続き、来賓としてご臨席頂いた熱田俊之助東京歯科大学理事長のご祝辞を頂くと共に、金子 譲東京歯科大学学長、中井麗子東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞を頂いた。在校生代表の2年生、高橋希望さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として羽野早紀さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「衛生士学校校歌」と「蛍の光」を厳かに斉唱し、第60回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は終わり、卒業生たちは歯科界へと

巣立っていった。

引き続き行われた記念品贈呈式では、中井同窓会長から代表の柿下茉莉さんに袱紗が手渡された。また、在校生の綿貫 恵さんからデジタルフォトフレームと花が卒業生の小林有希さんに贈ら



校長より卒業証書を授与される卒業生:平成23年3月11日(金)、千葉校舎講堂



答辞を述べる卒業生:平成23年3月11日(金)、千葉校舎講堂

れ、卒業生を代表して、酒井美佳さんから後輩たちのためにホワイトボードと賞状盆が学校へ贈呈された。最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師を囲んで卒業記念の集合写真撮影が行われ、60期卒業式のすべての行事が終了した。



卒業証書を手喜びの卒業生:平成23年3月11日(金)、千葉校舎講堂



恩師と共に卒業記念の集合写真:平成23年3月11日(金)、千葉校舎講堂

## 学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校

副校長 高橋 俊之

現在、本校に在籍する学生の数は、133名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、126名であります。

本日、第60回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、45名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,198名となります。

平成23年3月11日

## 告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校

校長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えして、また、保護者の皆様にご列席いただき、第60回卒業証書授与式を挙行致しますことをこころからお喜び申し上げます。

卒業生の皆様、おめでとう御座います。皆様を社会に送りだせますことは教職員一同大きな喜びとするところです。そして、この日を待ち望んでおられた保護者の方々には、お子様の栄えある姿をご覧になり、感慨もまたひとしおのことと存じます。

東京歯科大学歯科衛生士学校が全国に先駆けて、歯科衛生士の卒業生を世に送り出したのは61年前の昭和25年8月25日でした。その第1回卒業生は6名でありました。同年9月に実施されました、第1回の東京都歯科衛生士試験に応募した者は24名で、受験者は全員合格という結果でした。勿論、6名の本校卒業生も全員合格となり、これを聞いた当時の奥村鶴吉学長、杉山不二校長はじめ教職員一同の喜びは大変なものであったと聞いております。それから時を重ね、60回の卒業式という節目の時を迎えたいま、本校の先人、先輩の方々のこれまでのご尽力と努力に思いを馳せますと、万感胸に迫るものがございます。

60年の時を経た現在、歯科衛生士の活躍には目を見張るものがあります。平成23年の今年是全国の歯科衛生士教育年限が3年以上となった記念すべき年であります。この年に歯科衛生士として社会に出る卒業生の皆様は、歯科衛生士の躍進を象徴する回生として歴史に残るものとなります。

歯科衛生士の業務について、世の中の関心が急速に高まってきております。歯科界は勿論ですが、医師をはじめとする多くの医療職種や介護職種が歯科衛生士を高く評価し、相互の連携を深める動きが活発となっております。歯科衛生士がこれまで積み重ねた実績と、それに基づいた信頼と期待を多くの国民が持っていることがこのことを後押ししているものと思われまます。

医療従事者には、医学医療の知識と技能のみならず態度においても求められるものがあります。傷や病を持つ人にとって医療従事者の態度は心に届く薬であると言われております。卒業生の皆様は、歯科医療の場において皆様の存在そのものが病んだ人々を癒す、そのような歯科衛生士となって頂きたいと思ひます。そのためには、多くの優れた先輩の方々が持つ経験とそれによって形作られた歯科衛生士像というものを受け継ぐこと、そしてそれを自分の中で育てていくことが肝要かと思ひます。優れた医療従事者に共通していることは、相手の心を打つものを持っているということです。一生懸命とか、燃えているとか、生き生きしているとか、また、今より良くなるという信念を持っている、ということです。これらのことは、相手の心を揺さぶります。さらに、知識と技能に裏打ちされた尊敬を受けていると同時に、謙虚であり感謝が身についていることも共通していることです。

是非、広く多くの方々と交流し、生涯にわたって歯科衛生士として、また人として自らを高めていつて頂きたいと思ひます。そのことにより、国民の健康と福祉に大いに貢献されますことを期待して告辞といたします。

### ■第20回歯科衛生士試験実施

平成23年2月27日(日)第20回歯科衛生士試験が全国10か所の試験場で一斉に実施された。

本校の卒業予定者45名全員が、東京試験場の明治大学駿河台キャンパス・リパティータワーにて受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前100問(3時間)、午後100問(3時間)の計200問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月28日(月)午後2時に厚生労働省ならびに歯科医療研修振興財団にて発表さ

れ、本校の受験者45名は全員合格した。全国の受験者総数5,788名(昨年:5,929名)のうち、合格者は5,585名(昨年:5,761名)で、合格率は96.5%(昨年:97.2%)であった。受験者数は昨年と比べて140名ほど減少し、本年度の合格者数も昨年より180名ほど減少した。新卒と既卒を含めた合格率が100%の学校は、全国の142校のうち75校(52.8%)であった。

## 創立120周年記念事業

### ■本学創立120周年記念行事記録DVDを制作

本学創立120周年を記念し、DVD「東京歯科大学創立120周年記念行事記録」が制作された。これは、創立120周年を迎えた平成22年に記念事業として催された全行事(記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会、記念姉妹校交流会議、記念式典・記念講演・祝賀会、記念学生行事)の様子が120分に纏められた、貴重な記録映像である。

なお、DVDは千葉校舎図書館、市川総合病院・



東京歯科大学創立120周年記念行事記録DVD

水道橋病院図書分館の3キャンパスそれぞれに備えてあり、視聴することが出来ます。

### ■都立病院と本学の関わりについて金子 譲学長が同窓矢島敏夫先生と対談

平成23年2月14日(月)水道橋病校舎5階役員室において、川口 充教授(記念誌編纂副委員長)の進行により、金子 譲学長と矢島敏夫先生(昭和16年3月卒)の対談が行われた。

これは、創立120周年記念誌を編纂するにあたり、中井武一郎先生(大正5年10月卒)のご活躍や都立病院と本学との関係を調べる上で矢島先生にお話を伺いたいということで実現したものである。

関東大震災後、東京市立病院の再建を進めていた中で最初に歯科を開設したのが大久保病院である。その初代医長に中井先生が就任し、その後、塚野多四郎先生(昭和5年3月卒)、矢島先生と続いた。

やがて東京市は東京都となり、終戦時の都立病院6病院のうち、4病院の歯科の初代医長は本学出身であり、その他でも本学は都立病院の創成期

から歯科運営に大きな貢献をしていたことがわかった。

矢島先生は当時の様子や血脇守之助先生、奥村鶴吉先生をはじめ諸先生方の思い出を力強く語られ、本学の歴史の一面を知る貴重な機会となった。



対談中の金子学長（右）、矢島先生（中央）、川口教授（左）：平成23年2月14日（月）、水道橋校舎5階役員室

■水道橋病院告知サイン変更のお知らせ

平成23年2月14日

教職員各位

従前、創立120周年記念事業の告知サインを掲出しておりました水道橋校舎エントランス（校舎入口ガラス面）に、水道橋移転事業を広く周知するために新たな告知サインを掲出しました。



新告知サイン  
（正面玄関側）



既存告知サイン  
（白山通り沿い側）

平成23年度 第1学年時間割表

時間		組 曜日	Aクラス					Bクラス				
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
前期	9:00 ~ 10:25	1	一般化学I (歯科医学史) コミュニケーション割	歯科医学概論 (歯科医学史) コミュニケーション割	基礎物理Iβ 基礎化学I 健康学	基礎生物I 一般生物I	独 語	一般化学I (歯科医学史) コミュニケーション割	基礎物理Iβ 基礎化学I 健康学	基礎生物I 一般生物I	英語III	
	10:35 ~ 12:00	2	医療法学	基礎物理Iβ 基礎化学I コミュニケーション割	自然科学 演習I	自然科学 演習I	英語III	自然科学 演習I	基礎物理Iβ 基礎化学I コミュニケーション割	心理学	独 語	英語I
	13:00 ~ 14:25	3	数学I	社会福祉	心理学	基礎物理I a 一般物理I	英語II	医療法学	数学I	英語II	基礎物理I a 一般物理I	独 語
	14:35 ~ 16:00	4	経済学 社会学 哲学	体 育	独 語	情報科学 教 養 セミナー	英語I	経済学 社会学 哲学	社会福祉	自然科学 演習I	情報科学 教 養 セミナー	体 育
	16:10 ~ 17:30	5										
後期	9:00 ~ 10:25	1	基礎物理II a 一般化学II	基礎物理II β 一般物理II	人 間 生物学	独 語	生物II	基礎物理II a 一般化学II	基礎物理II β 一般物理II	人 間 生物学	英語III	生物II
	10:35 ~ 12:00	2	歯科基礎 数 学	英語II	心理学	英語III	英語I	英語I	独 語	独 語	生 命 倫 理	人類学
	13:00 ~ 14:25	3	数学I	独 語	理科実習	生 命 倫 理	人類学	歯科基礎 数 学	美 術	心理学	英語II	理科実習
	14:35 ~ 16:00	4	基礎化学II	美 術		生物の 構造と機能	体 育	基礎化学II	数学I	体 育	生物の 構造と機能	
	16:10 ~ 17:30	5		教 養 セミナー		自然科学 演習II			教 養 セミナー		自然科学 演習II	

## 平成23年度第2・3・4・5学年時間割表

学期	第2学年					第3学年					第4学年					第5学年							
	時間	曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
前期	9:00~10:25	1	生理	基礎科学 歯科	口腔解剖	A 医療統計 B 科学英語	B 生命現象と物質実習 A 解剖実習	口 微	A 微生物実習	B 生理実習	発生病態学	病 理	口 病Ⅰ	歯科矯正実習	歯 周	クラウン補綴学 リッジ補綴学	小 児 歯 科 実 習	有床義歯 補綴学	臨床実習	課題講義	課題講義	課題講義	課題講義
	10:35~12:00	2	生物	細胞分子 B 歯科医学英語	口腔解剖	B 歯科医学英語 A 科学英語	生体の科学	保存修復	有床義歯 補綴学	病理実習	薬理実習	生化学実習	矯正	歯 放	社 歯	小 歯	局部義歯実習						
	13:00~14:25	3	生物	細胞分子 と機能	口腔解剖実習	解剖	A 生命現象と物質実習 B 解剖実習	衛 生	歯 内	理 工			矯正 正	歯 放	口 外	小 歯							
	14:35~16:00	4	A 歯科医学英語	B 医療統計 組 織	解剖実習	解剖	A 生命現象と物質実習	薬 理	A 生理実習	B 微生物実習	生化学	歯科理工実習	歯 麻	口 衛 実 習	隣 接 医 学	院 内 監 査 予 防 物 資 管 理 ・ オ ー ラ ル メ テ リ ン ・ 歯 科 医 療 管 理 学 ・ 医 療 安 全 管 理	臨床実習						
	16:10~17:30	5	コミュニケーション学Ⅱ	コミュニケーション学Ⅱ	コミュニケーション学Ⅱ	コミュニケーション学Ⅱ	英語読説	歯科医学	歯科医学	法 歯	内 科	内 科	内 科	内 科	内 科	内 科	内 科	臨床実習					
後期	9:00~10:25	1	口腔生理	歯科臨床概論・ コミュニケーション学Ⅱ	A 解剖実習	B 組織実習	病 理	微生物	保存修復	小 歯	補綴学 有床義歯	歯 科 補 綴 学	衛 生 ・ 口 衛	臨 床 検 査 学	クラウン補綴学 リッジ補綴学	歯 麻	口 外	口腔インプラント学・課題講義	臨床実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習	
	10:35~12:00	2	生理	コミュニケーション学Ⅱ	口腔組織・ 口腔組織実習	歯 薬	歯 理	口 病Ⅱ	矯正	歯 内	矯正 正	衛 生 ・ 衛 生 実 習 ・ 口 衛 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 Ⅲ (医療面接介護施設)	隣 接 医 学	クラウンブリッジ補綴学実習	歯 放	口 外	歯 周						歯 科 補 綴 学 実 習
	13:00~14:25	3	生化学	生化学	解剖	歯 理	歯 工	口 病Ⅱ	総 義 歯 実 習	歯 内	歯 内 療 法 実 習	隣 接 医 学	隣 接 医 学	クラウンブリッジ補綴学実習	歯 放	口 外	歯 周						歯 科 補 綴 学 実 習
	14:35~16:00	4	薬理	口腔生理	A 組織実習	B 解剖実習	歯 工	口 病実習	歯 内	歯 内 療 法 実 習	隣 接 医 学	隣 接 医 学	隣 接 医 学	クラウンブリッジ補綴学実習	歯 放	口 外	歯 周						歯 科 補 綴 学 実 習
	16:10~17:30	5	微生物	微生物	組織実習	解剖実習	歯 工	口 病実習	歯 内	歯 内 療 法 実 習	隣 接 医 学	隣 接 医 学	隣 接 医 学	クラウンブリッジ補綴学実習	歯 放	口 外	歯 周						歯 科 補 綴 学 実 習

## 平成23年度学生数一覧

平成23年4月1日現在

学 年	男	女	計	班 分 け	欠 番	
1年	A	36	29	65	1A : No.1~65 1B : No.71~135	66~70
	B	29	36	65		
		65	65	130		
2年	92	59	151	A班 : No.1~76 B班 : No.77~152	26	
3年	85	52	137	A班 : No.1~69 B班 : No.70~138	79	
4年	78	49	127	A班 : No.1~64 B班 : No.65~128	95	
5年	75	54	129	A班 : No.1~26 B班 : No.31~56 C班 : No.61~86 D班 : No.91~116 E班 : No.121~145	27~30 57~60 87~90 117~120	
6年	100	56	156		77、79、101、106、 140、145	
合 計	495	335	830			

## 平成23年度 学年暦

年月日	曜	行 事 予 定		
平成23年 4月	6日	水	編入学生オリエンテーション 2・3・4年生オリエンテーション	
	7日	木	2・3・4年生前期授業開始	
	8日	金	5年生オリエンテーション・登院式	
	11日	月	5年生登院器材刻印・検査	
	12日	火	入学式	
	13日	水	新入生オリエンテーション・学内見学	
	14日	木	1年生前期授業開始	
	5月	2日	月	1～4年休講日(4/29～5/5連休)
	6月	6日	月	6年生第1回総合学力試験(7日(火)まで) (予定)
		9日	木	1年生健康診断
		17日	金	実験動物供養祭(千葉校舎)(3年生)(予定)
	7月	11日	月	夏期休暇 開始(震災の影響により変更有)
	8月	31日	水	夏期休暇 終了
	9月	1日	木	1・2・3・4年生授業再開 6年生第2回総合学力試験(2日(金)まで) (予定)
	3日	土	5年生第1回総合学力試験	
	14日	水	1・2・3・4年生前期授業終了	
	16日	金	1・3・4年生前期定期試験(28日(水)まで) 2年生前期定期試験(27日(火)まで)	
	28日	水	解剖慰霊祭(水道橋校舎)(2年生)(予定)	
10月	3日	月	1・2・3・4年生後期授業開始	
	25日	火	6年生第3回総合学力試験(26日(水)まで) (予定)	
	28日	金	} 第43回東歯祭(準備・後片付けを含む)	
	31日	月		
11月	1日	火		振替授業(金曜日分)
	12日	土	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、学士編入学試験(予定)	
12月	19日	月	} 1・2・3・4年生前期追・再試験	
	22日	木		
	25日	日		
平成24年 1月	7日	土	} 冬期休暇	
	6日	金	6年生第4回総合学力試験(7日(土)まで) (予定)	
	10日	火	1・2・3・4年生授業再開 振替授業(月曜日分)	
	14日	土	大学入試センター試験(15日(日)まで) (予定)	
	31日	火	1・2・3・4年生後期授業終了	
	2月	2日	木	一般入学試験(I期)、センター利用入試(I期) (予定)
	7日	火	1・2・3・4年生後期定期試験(13日(月)まで)	
	12日	日	本学創立記念日	
	14日	火	4年生総合学力試験	
	15日	水	2年生総合学力試験	
	16日	木	3年生総合学力試験	
	17日	金	4年生共用試験(CBT)	
	18日	土	5年生第2回総合学力試験	
	20日	月	1年生総合学力試験	
	26日	日	4年生共用試験(OSCE)(前日25日テストラン)	
	28日	火	} 1・2・3・4年生後期追・再試験	
3月	2日	金		
	3日	土		5年生総合学力追・再試験
	5日	月		3・4年生総合学力追・再試験
	6日	火		1・2年生総合学力追・再試験
	8日	木		4年生共用試験(CBT)追・再試験
	10日	土	一般入学試験(II期)、センター利用入試(II期)、編入学試験(予定)	
	16日	金	第117回卒業式(予定)	



# 人物往来

## ■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生74名、教員3名)  
平成23年2月3日(木)解剖実習室、病院見学
- 藤リハビリテーション学院(学生59名、教員2名)  
平成23年2月7日(月)から10日(木)、14日(月)から16日(水)まで、解剖実習、解剖学教室見学
- 日本医科学看護専門学校(学生80名、教員4名)  
平成23年2月17日(木)解剖実習、解剖標本室見学
- 八千代リハビリテーション学院(学生162名)  
平成23年2月21日(月)から25日(金)まで、解剖実習見学
- 静岡県立短期大学部歯科衛生学科(学生41名、教員2名)  
平成23年2月28日(月)解剖標本室、病院見学
- 国際医療福祉専門学校(学生46名、教員3名)  
平成23年3月2日(水)から4日(金)まで、解剖実習見学
- 千葉・柏リハビリテーション学院(学生55名、教員2名)  
平成23年3月8日(火)解剖実習見学
- 埼玉県立常盤高等学校看護専攻科(学生87名、教員4名)  
平成23年3月15日(火)解剖実習、解剖標本室見学
- 千葉医療福祉専門学校(学生41名、教員5名)  
平成23年3月22日(火)から24日(木)まで、解剖実習見学  
市川総合病院
- 亀田メディカルセンター、亀田クリニック(歯科医師2名)  
平成23年2月23日(水)歯科電子カルテ見学

## ■海外出張

- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)  
WHO Consensus Meetingに出席のため、平成23年2月5日(土)から11日(金)まで、イタリア・ボローニャへ出張。
- 高木幸子レジデント(市病・オーラルメディスン)  
フロリダ大学での摂食・嚥下リハビリテーションシステムの見学、および海外研修のため、平成23年2月5日(土)から3月5日(土)まで、アメリカ・フロリダへ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)  
Semmelweis大学眼科の見学、および会議のため、平成23年2月10日(木)から13日(日)まで、ハンガリー・ブダペストへ出張。
- 井上孝教授(臨床検査)  
FDI教育委員会2011に出席のため、平成23年2月13日(日)から16日(水)まで、スイス・ジュネーブへ出張。
- 笠原正貴講師、佐塚祥一郎大学院生(歯科麻酔)  
ミャンマー連邦国にて口唇口蓋裂児への医療援助、技術指導、および学術調査のため、平成23年2月15日(火)から27日(日)まで、ミャンマー連邦国・サガイン、およびマンダレーへ出張。
- 佐藤亨教授(クラウンブリッジ補綴)  
国際歯科審美学会総会、およびAmerican Academy of Fixed Prosthodonticsに参加のため、平成23年2月23日(水)から28日(月)まで、アメリカ・シカゴへ出張。
- 石田瞭講師(摂食・嚥下リハビリテーション)  
Dysphagia Research Society 19th Annual Meetingに参加、および発表のため、平成23年3月2日(水)から8日(火)まで、アメリカ・サンアントニオへ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)  
国際眼内レンズ学会に参加のため、平成23年3月2日(水)から7日(月)まで、インドネシア・バリへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)  
WHO細胞組織コーディング化の導入検討会議に出席のため、平成23年3月3日(木)から9日(水)まで、アメリカ・ニューヨークへ出張。
- 茂木悦子准教授(歯科矯正)  
台湾高雄市歯科医師会学術大会にて特別講演のため、平成23年3月3日(木)から7日(月)まで、台湾・高雄市へ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)  
ベトナム厚生省・農業省との会談、ベトナム眼科学会コミュニケーションセミナーへ参加、ベトナム国立眼科病院にて面談のため、平成23年3月11日(金)から16日(水)まで、ベトナム・ハノイへ出張。
- 内山健志教授(口腔外科)  
7th Asian Pacific Cleft Lip and Palate Craniofacial Congressにて招待講演のため、平成23年3月13日(日)から18日(金)まで、オーストラリア・パースへ出張。
- 洪川義宏准教授(歯周病)  
トーマスジェファーソン大学にて共同研究打ち合わせのため、および第89回International Association for Dental Research General Session (IADR)にて発表のため、平成23年3月13日(日)から21日(月)まで、アメリカ・フィラデルフィア、およびサンディエゴへ出張。
- 松久保隆教授、大澤博哉大学院生(衛生)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月15日(火)から、松久保教授は21日(月)まで、大澤大学院生は19日(土)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 野村武史講師、菅原圭亮助教(口腔外科)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月15日(火)から21日(月)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 櫻井薫教授、山田将博助教(有床義歯補綴)  
第89回IADRに参加、および発表のため、櫻井教授は平成23年3月16日(水)から21日(月)まで、山田助教は平成23年3月15日(火)から20日(日)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 野村真弓助教(歯科矯正)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月15日(火)から20日(日)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 富田智子大学院生(歯科麻酔)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月15日(火)から21日(月)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 橋本和彦大学院生(臨床検査)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月16日(水)から21日(月)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 大串圭太大学院生(水病・歯科麻酔)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月15日(火)から21日(月)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖)  
第89回IADRに参加、および発表のため、平成23年3月21日(月)から25日(金)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 眞木吉信教授(社会歯科)  
タイ国、およびWHO,FDI,IADRにより共催されるワークショップ「Effective uses of fluoride in Asia」に出席するため、平成23年3月21日(月)から24日(木)まで、タイ・プーケットへ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)  
Presbyopia Strategic Advisory Board Meeting、およびアメリカ白内障屈折矯正手術学会に出席のため、平成23年3月23日(水)から31日(木)まで、アメリカ・ロサンゼルス、およびサンディエゴへ出張。
- 佐野 司教授(国際渉外部・歯科放射線)  
2011台北医学大学口腔医学院国際学術週にて招待講演、およびElective Studyの打ち合わせのため、平成23年3月25日(金)から28日(月)まで、台湾・台北へ出張。
- 石井拓男教授(社会歯科)  
2011台北医学大学口腔医学院国際学術週にて招待講演、および台湾の歯科医師との座談会に出席のため、平成23年3月26日(土)から29日(火)まで、台湾・台北へ出張。

# 大学日誌

## 平成23年2月

- 1 (火) 防火・防災安全自主点検日
- 2 (水) 一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期)[於:東京・大阪・福岡会場]  
リスクマネージメント部会  
ICT会議  
会計検査院監査(市病)
- 3 (木) 教務部(課)事務連絡会  
感染制御委員会(市病)  
治験審査委員会・倫理委員会(市病)
- 4 (金) 利子補給奨学生選考委員会  
歯科衛生士専門学校1年生後期授業終了  
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 5 (土) 一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期)合格発表  
第104回歯科医師国家試験(～6日)  
講座主任教授会(臨時)  
患者サロン(市病)
- 7 (月) 1～4年生後期定期試験(～14日)  
総合講義検討委員会  
病院運営会議  
個人情報保護委員会  
医療安全管理委員会  
感染予防対策委員会(ICC)  
臨床教育委員会  
医局長会  
プログラム責任者・副責任者会議  
公認会計士中間監査(～10日)(水病)  
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 8 (火) 臨床教授連絡会、講座主任教授会  
人事委員会  
歯科衛生士専門学校教員会  
歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験(～18日)
- 9 (水) 大学院運営協議会  
千葉校舎課長会  
教育WS「臨床基礎実習」作業部会  
看護部運営会議(市病)  
業務改善委員会(市病)  
救急委員会(市病)  
ICU運営委員会(市病)  
リスクマネージメント部会(水病)  
薬事委員会(水病)
- 10 (木) 大学院入学試験(II期)願書締切  
医療安全管理委員会(市病)  
手術室運営委員会(市病)
- 13 (日) 全館消毒(水病)
- 14 (月) 医療安全研修会  
臨床研修歯科医症例報告会(水病)
- 15 (火) 4年生総合学力試験  
教養科目協議会  
環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日  
褥瘡対策委員会(市病)  
給食委員会(水病)
- 16 (水) 2年生総合学力試験  
衛生委員会  
CPC (市病)
- 17 (木) 3年生総合学力試験  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
業務連絡会  
高度・先進医療委員会
- 17 (木) 部長会(市病)  
市川市医師会・歯科医師会員との合同講演会および懇親会(市病)
- 18 (金) 4年生共用試験(CBT)  
ICT委員会(市病)  
理事会(法人)  
医療安全管理委員会(水病)  
感染予防対策委員会(水病)  
個人情報保護委員会(水病)  
医療連携プロジェクト委員会(水病)  
科長会(水病)
- 19 (土) 5年生第2回総合学力試験  
大学院入学試験(II期)  
水道橋移転計画建設事業起工式
- 21 (月) 1年生総合学力試験  
公認会計士中間監査(～25日)  
第101回歯科医学教育セミナー  
機器等安全自主点検日
- 22 (火) 一般入学試験 (II期)・大学入試センター利用試験 (II期)・編入学試験願書受付開始(～3/8)  
大学院入学試験(II期)選考委員会  
データ管理者会議  
カルテ整備委員会  
診療記録管理委員会  
医療サービスに関する検討会
- 23 (水) 5年生試験結果発表  
千葉校舎課長会  
情報システム管理委員会  
看護部運営会議(市病)  
データ管理者会議(水病)  
病院連絡協議会(水病)  
診療録管理委員会(水病)
- 24 (木) 大学院入学試験(II期)合格発表  
管理診療委員会(市病)  
歯科医師臨床研修実地検査(関東信越厚生局)(水病)
- 25 (金) 1・2年生試験結果発表  
3・4年生試験結果発表  
クリニカルパス委員会(市病)  
災害対策実施部会(市病)
- 26 (土) 4年生共用試験(OSCE)テストラン
- 27 (日) 4年生共用試験(OSCE)
- 28 (月) 医療連携委員会  
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)  
教職員研修会(水病)

## 平成23年3月

- 1 (火) 1～4年生後期追・再試験(～4日)  
教務部(課)事務連絡会  
防火・防災安全自主点検日
- 2 (水) リスクマネージメント部会  
ICT会議  
輸血療法委員会  
臨床検査部運営委員会  
千葉校舎課長会  
病院機能評価受審(～4日)(市病)  
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 3 (木) 第2回保険講習会  
第2回研修管理委員会(水病)
- 4 (金) 大学院運営協議会
- 5 (土) 5年生総合学力追・再試験  
研修管理委員会

- |        |   |        |   |
|--------|---|--------|---|
| 7 (月)  | 3・4年生総合学力追・再試験<br>平成22年度口腔科学研究センターワークショップ<br>プログラム責任者・副責任者会議<br>会計監査(～11日)(市病)  | 16 (水) | 業務連絡会   |
| 8 (火)  | 1・2年生総合学力追・再試験<br>一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験<br>(Ⅱ期)・編入学試験願書受付締切<br>歯科衛生士専門学校臨床実習委員会   | 17 (木) | 第116回卒業証書・学位記授与式<br>部長会(市病)<br>千葉校舎課長会  |
| 9 (水)  | 基礎教授連絡会<br>大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>看護部運営会議(市病)<br>救急委員会(市病)<br>ICU運営委員会(市病)<br>リスクマネージメント部会(水病)<br>薬事委員会(水病)<br>医薬品安全管理委員会(水病)<br>医療機器安全管理委員会(水病)    | 18 (金) | 大学院運営協議会  |
| 10 (木) | 4年生共用試験(CBT)追・再試験<br>医療安全研修会<br>医療安全管理委員会(市病)<br>手術室運営委員会(市病)<br>教職員研修会(水病)   | 19 (土) | 一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験<br>(Ⅱ期)・編入学試験追試験[於:水道橋校舎]<br>講座主任教授会(臨時)<br>人事委員会<br>機器等安全自主点検日<br>歯科医師臨床研修修了式(水病)                      |
| 11 (金) | 第60回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式  | 22 (火) | 大学院運営委員会(臨時)<br>大学院研究科委員会(臨時)<br>看護部運営会議(市病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>医療連携プロジェクト委員会(水病)<br>科長会(水病) |
| 12 (土) | 一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験<br>(Ⅱ期)・編入学試験[於:水道橋校舎]  | 23 (水) | 大学院修了式<br>防災訓練  |
| 14 (月) | 病院運営会議<br>臨床教育委員会<br>医局長会<br>図書委員会<br>地域連携委員会(市病)   | 24 (木) | 歯科臨床研修修了式<br>管理診療委員会(市病)<br>給与査定委員会(法人)<br>理事会(法人)<br>評議員会(法人)  |
| 15 (火) | 臨床教授連絡会<br>講座主任教授会<br>人事委員会<br>一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験<br>(Ⅱ期)・編入学試験合格発表<br>環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>歯科衛生士専門学校教員会<br>褥瘡対策委員会(市病)<br>感染予防対策チーム委員会(水病) | 25 (金) | 大学院修了式<br>防災訓練  |
|        |   | 28 (月) | 薬事委員会(市病)<br>NSTカンファレンス・勉強会(市病)<br>移転工事に関する説明会(水病)<br>教職員研修会(水病)  |
|        |   | 29 (火) | 薬事委員会<br>データ管理者会議<br>カルテ整備委員会<br>診療記録管理委員会<br>医療ガス取り扱い講習会(市病)   |
|        |   | 30 (水) | 学生部(課)事務連絡会<br>データ管理者会議(水病)<br>病院連絡協議会(水病)<br>診療録管理委員会(水病)  |
|        |   | 31 (木) | 退職者(本務教職員・レジデント)辞令交付<br>専修科生修了証交付(水病)   |

## 規程

平成23年2月10日

### 「東京歯科大学における公的研究費使用に関する行動規範」裁定にあたって

公的研究費最高管理責任者  
学長金子讓  
公的研究費統括管理責任者  
副学長柳澤孝彰

標記行動規範(以下行動規範)が、平成23年2月8日の第580回講座主任教授会にて承認のうえ、同日付学長裁定されました。

裁定の背景としては、平成19年2月に決定した文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン」において「研究者及び事務職員の行動規範を策定する」ことが求められています。また、平成19年11月に制定された「東京歯科大学における公的研究費の管理・監査実施基準」では、「研究者等の行動規範案の作成及び行動規範の普及方策の推進等に関すること」が不正防止推進室の役割として明記されました。

これらを踏まえ、今年度不正防止推進室において、室長の水口清教授を中心に議論を重ね原案をまとめ、12月の補助金管理・運営会議、1月の講座主任教授会で検討していただいたものが、この行動規範です。

一般的に「規範」とは、社会や集団において、個人が同調することを期待されている行動や判断の基準をいいます。研究機関における行動規範策定の目的は、研究者に対し共有できる具体的な方針を明確に示すことです。

本学の行動規範は誰が見ても常識的なことを全5項目に凝縮しています。研究費使用にあたって、研究者が認識すべきこと(=絶対に守らなければいけないこと。忘れてはいけないこと)が絞りこまれ、わかりやすく簡潔に書かれています。研究者の方々においては、趣旨をご理解のうえ、研究費使用にあたっては行動規範に立脚した姿勢が求められます。研究費管理に係る事務職員の方々も、十分理解のうえ業務執行にあたる必要があります。

行動規範は形式的に存在しているというのではなく、すべての方々に認知され、研究費使用の道しるべとして活かしていくことが大切です。みなさまの真摯な気持ちと創意工夫によりこの行動規範を十分活用してください。

### 東京歯科大学における公的研究費使用に関する行動規範

(平成23年2月8日 学長裁定)

本行動規範は、東京歯科大学における公的研究費の管理・監査実施基準(平成19年11月22日制定)を踏まえ、研究者等の公的研究費使用についての指針を明示したものである。

- 第1 研究者等は、公的研究費の使用にあたっては、関係法令や当該研究費使用規則並びに学内使用ルール、不正防止計画を遵守する。
- 第2 研究者等は、個人で採択された研究費であっても、原資は国民の税金であり、研究機関が管理する公的研究費の機関管理の必要性を自覚し行動する。
- 第3 研究者等は、公的研究費管理に携わる事務職員と相互に連携をとりながら、公的研究費を効率的かつ適正に使用する。
- 第4 研究者等は、学内における公的研究費使用に関する研修会等に常に参加し、最新のルール等の習得に努める。
- 第5 研究者等は、公的研究費に関する学内外の監査・調査等に、積極的に協力する。

## 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二 椎名 裕  
新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博 前田健一郎 百崎和浩  
（平成23年4月現在）

### 編集後記

東日本大震災が、平成23年3月11日(金)の午後2時46分に発生しました。

地震発生時、千葉校舎では、ゆっくりとした揺れがだんだんと大きくなり、書棚が傾いて中身が飛び出し、コップや皿が飛び出し割れました。揺れの時間は長く、何度も余震が続き、学内には緊急放送が響きわたり、非常用の防火扉が閉まりました。

病院棟や臨床管理棟、基礎棟、教養棟などの建造物には、大きな被害はありませんでしたが、駐車場やグラウンド、そして学内の道路のあちらこちらにひび割れが走り、液状化現象による灰色の泥水が、アスファルトの割れ目から噴水のように噴き出していました。駐車場で地震に遭遇した人の話では、地面が波打ってひび割れ、割れた口が開いたり閉じたりした直後に、砂と水が噴き出したそうです。

救急車や消防車のサイレンが行き交っていましたが、やがて東の空が真っ赤になると共に大きな爆発音が聞こえ、窓ガラスが震えました。市原にある石油コンビナートの貯蔵タンクが爆発し火災を起こしていたのです。

やがて、ニュースでは、三陸沖を震源とする巨大地震が起きたこと、そして、それにともなう広範囲で巨大な津波が押し寄せ、多くの市街を破壊し尽くしている状況を伝え始めました。信じられない光景に言葉を失い、ただただ黙するしかありませんでした。さらにその後、福島第一原子力発電所の危機的な状況が、刻一刻と伝えられていき、戦慄を覚えました。

ひとり一人の命とその人生が、津波の黒い水の流れの中に飲み込まれ、二万数千人の中の一人というただの数字になっていく不条理。跡形もなくひとつの街が丸ごと無くなり消え去ってしまう現実と、愛する家族を失った人達の言葉に、痛みと共に胸が押しつぶされる思いでした。

日本全国や世界中から寄せられる支援の輪が大きくひろがり、東京歯科大学からも、大震災直後に卒業式を迎えた116期生をはじめ、多くの義援金や口腔ケア用品、被災地での身元確認調査や歯科医療活動などの支援が行われています。さらに海外からは、延世大学校歯科大学を代表して鄭 翰聖教授が義援金を持って来日されると共に、東京歯科大学の台湾同窓会からも、被災した学生達のために心のこもった義援金が届けられました。

そんな中、第116期の卒業生125名が東京歯科大学を巣立っていきました。卒業生代表の中村有希さんの答辞には、あつという間の6年間の日々のなかでぎゅぎゅと詰まった彼らの勉学への努力と友情、そして、自分たちを支えてくれた周りの人たちへの感謝と、将来への決意が述べられています。歯科衛生士専門学校からは、第60期の卒業生45名が社会への一歩を踏み出しました。そして卒業式が終わったその日の午後には大震災が起こりました。

卒業生達には華やかな謝恩会はありませんでしたが、ひとり一人の胸の中で、一生の記憶に残る忘れることのできない卒業式であったことでしょう。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



「新緑の中庭」

季節だけはいつもと変わらず、なにごとでもなかったかのようにめぐってきます。鮮やかな新緑が目まぶしく突き刺さるほどに……。